

集計結果

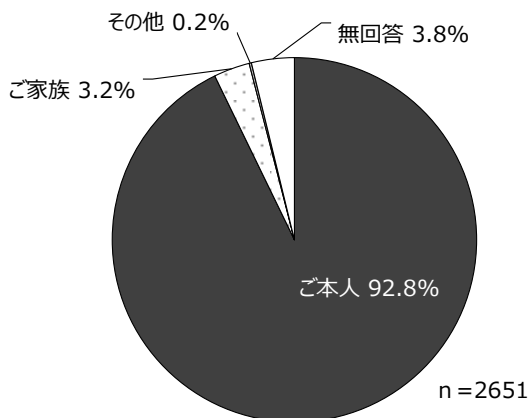
※各調査の集計表は新宿区のホームページに掲載しています。

1 一般高齢者+介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

あなた自身のことについて

調査票を記入した人

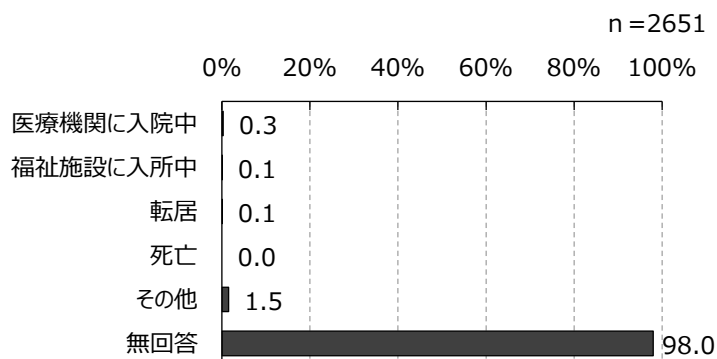
【図表 1】 調査票の記入者



記入者	人数
ご本人	2,460
ご家族	85
その他	4
無回答	102
合計	2,651

ご本人が何らかの事情によりご不在の場合

【図表 2】 不在の事情

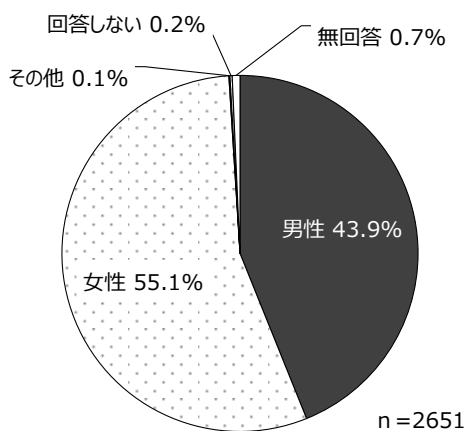


不在の事情	人数
医療機関に入院中	8
福祉施設に入所中	2
転居	2
死亡	0
その他	39
上記に該当しない	2,600
合計	2,651

1 一般高齢者+介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

問1 性別を教えてください。

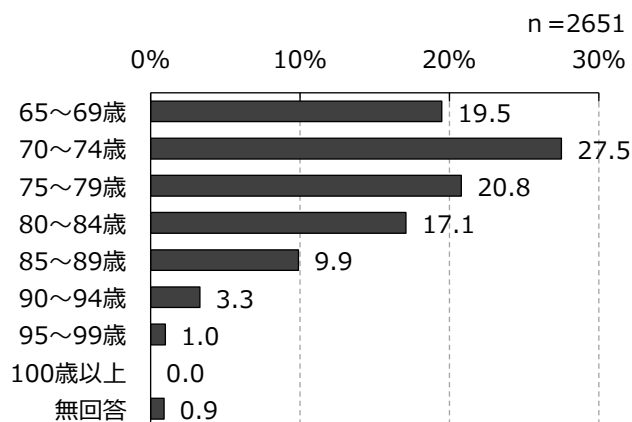
【図表3】性別



性別	人数
男性	1,164
女性	1,461
その他	3
回答しない	4
無回答	19
合計	2,651

問2 年齢をご記入ください。

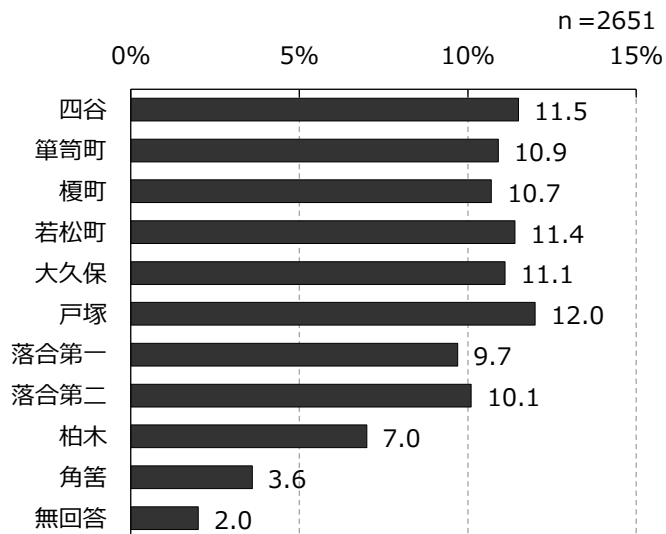
【図表4】年齢



年齢	人数
65～69歳	517
70～74歳	728
75～79歳	551
80～84歳	453
85～89歳	262
90～94歳	88
95～99歳	26
100歳以上	1
無回答	25
合計	2,651

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。

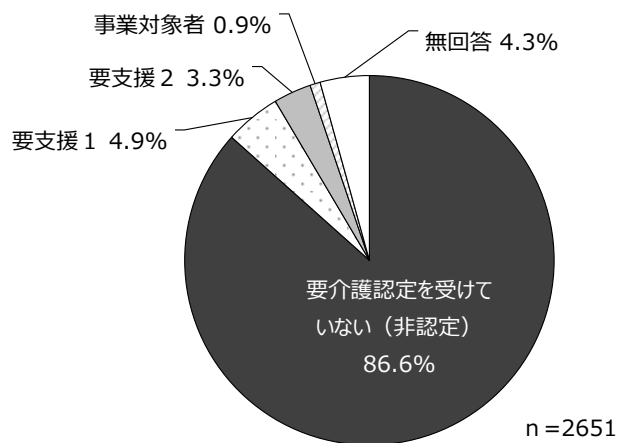
【図表5】居住地域



居住地域	人数
四谷	306
箆笥町	288
榎町	283
若松町	303
大久保	294
戸塚	317
落合第一	257
落合第二	268
柏木	186
角筈	96
無回答	53
合計	2,651

問4 あなたの現在の状態は、次のうちどれですか。

【図表6】現在の状態



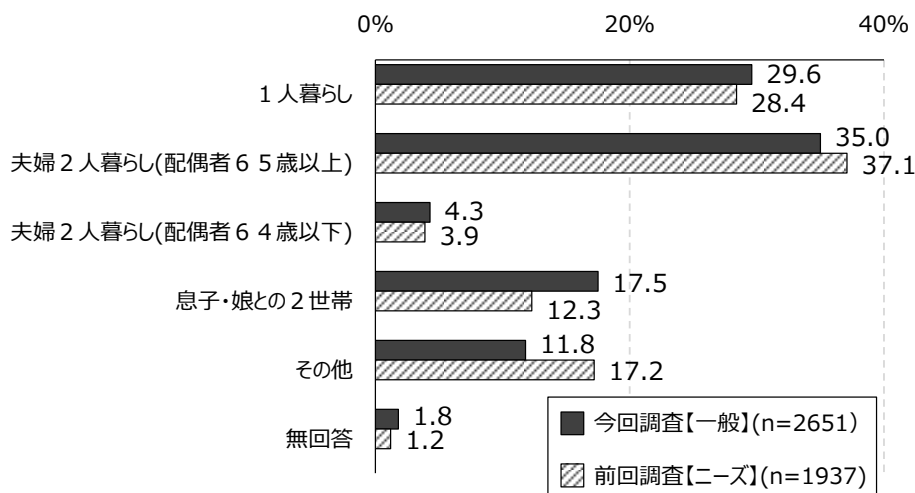
現在の状態	人数
要介護認定(非認定)	2,296
要支援1	129
要支援2	88
事業対象者	23
無回答	115
合計	2,651

あなたのご家族や生活状況について

問5 家族構成を教えてください。

家族構成については、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が35.0%と最も多く、次いで「1人暮らし」が29.6%、「息子・娘との2世帯」が17.5%となっている。

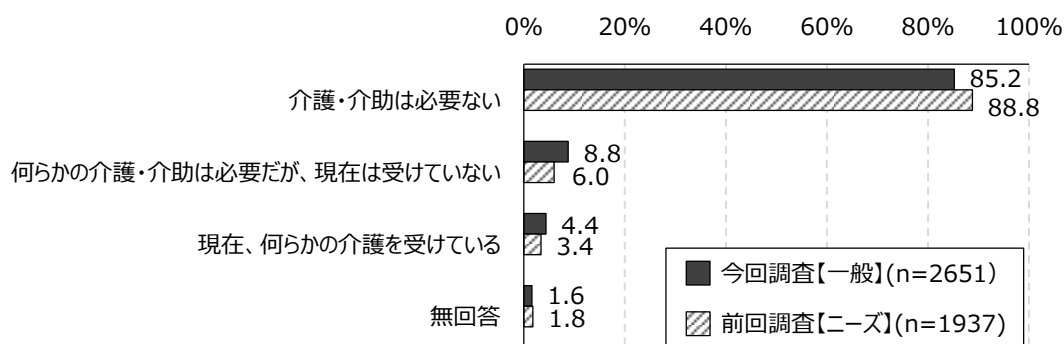
【図表 7】 家族構成〈前回比較〉



問6 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

普段の生活で介護・介助が必要かについては、「介護・介助は必要ない」が85.2%と最も多く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が8.8%、「現在、何らかの介護を受けている」が4.4%となっている。

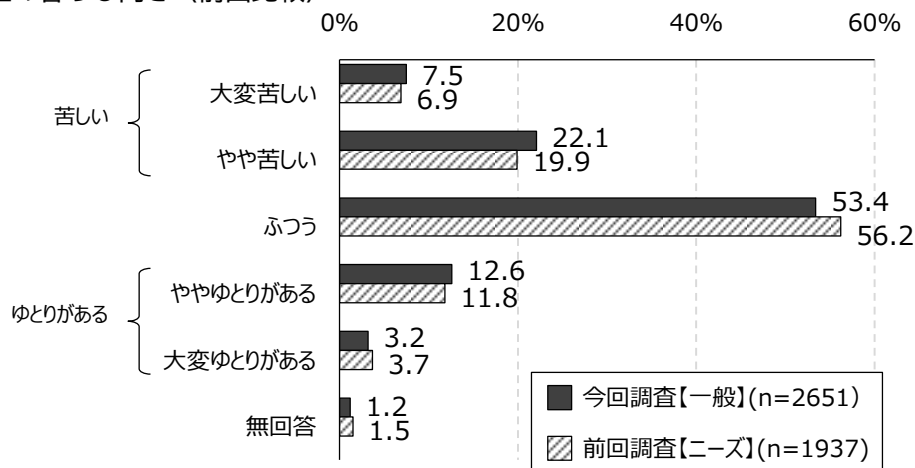
【図表 8】 普段の生活での介護・介助の必要性〈前回比較〉



問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

現在の暮らしの経済的な状況については、「ふつう」が53.4%と最も多く、「大変苦しい」(7.5%)と「やや苦しい」(22.1%)を合わせた“苦しい”は29.6%となっている。一方、「ややゆとりがある」(12.6%)と「大変ゆとりがある」(3.2%)を合わせた“ゆとりがある”は15.8%となっている。

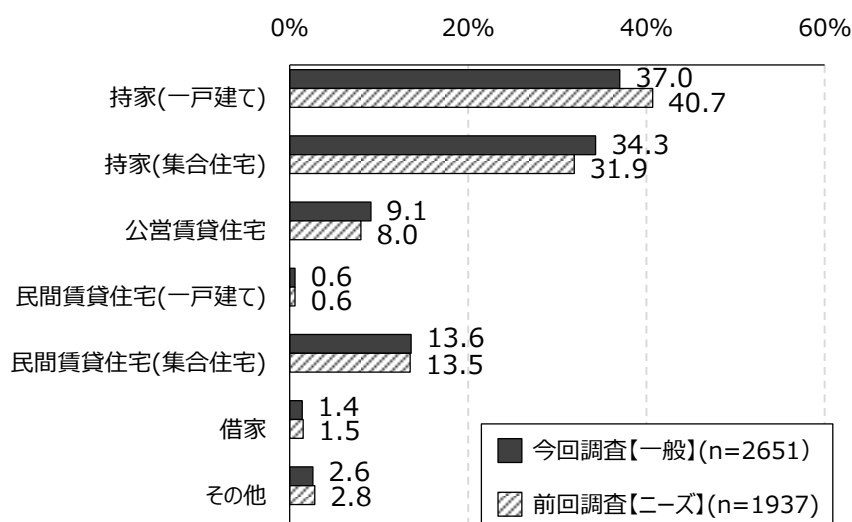
【図表9】現在の暮らし向き〈前回比較〉



問8 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

住まいについては、「持家（一戸建て）」が37.0%と最も多く、次いで「持家（集合住宅）」が34.3%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が13.6%となっている。

【図表10】住居の形態〈前回比較〉



からだを動かすことについて

問9 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

問10 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

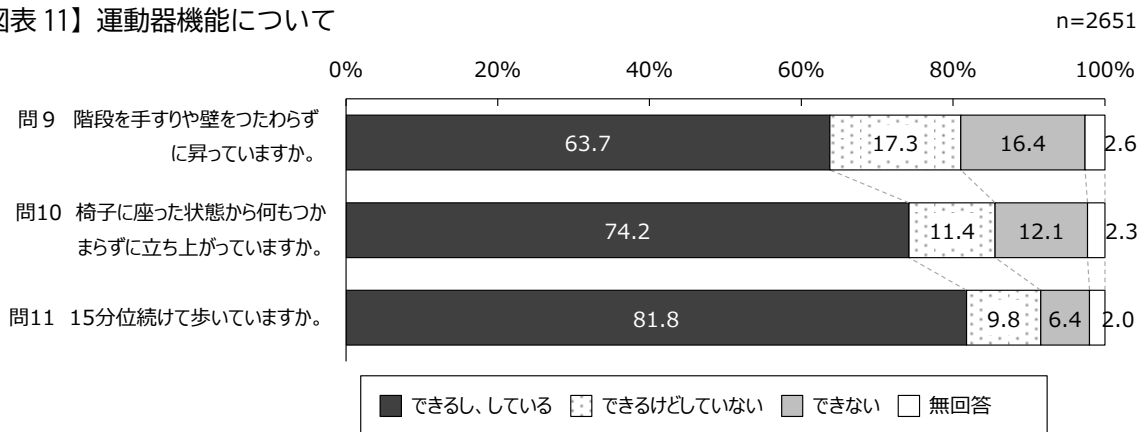
問11 15分位続けて歩いていますか。

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかでは、「できるし、している」が63.7%となっている。

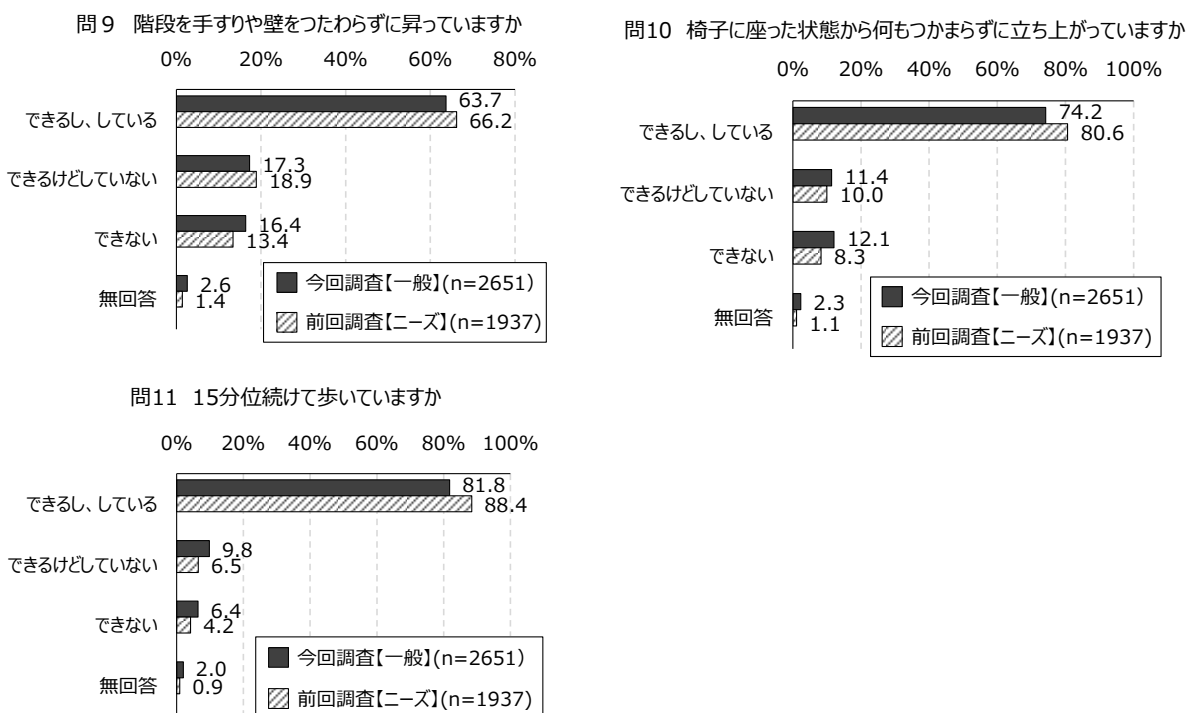
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかでは、「できるし、している」が74.2%となっている。

15分位続けて歩いているかでは、「できるし、している」が81.8%となっている。

【図表 11】 運動器機能について



【図表 12】 運動器機能について 〈前回比較〉



◆各種リスクの状況

厚生労働省の『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き』において、リスク把握の考え方を示された項目について、各種リスクの状況を以下に示す。
なお、各種リスクの状況については、標本数の多寡があるため、参考としての掲載とする。

■運動器機能の低下している高齢者割合

問9 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか（「できない」）

問10 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（「できない」）

問11 15分位続けて歩いていますか（「できない」）

問12 過去1年間に転んだ経験がありますか（「何度もある」「1度ある」）

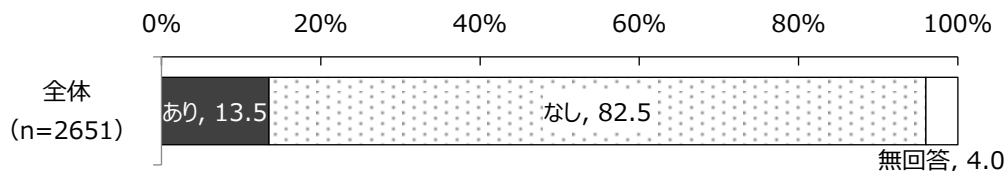
問13 転倒に対する不安は大きいですか（「とても不安である」「やや不安である」）

※上記5つの設問のうち、3問以上で機能低下に該当する選択肢（上記のカッコ内部分の選択肢）と回答している場合に「運動器機能の低下あり」と判定。

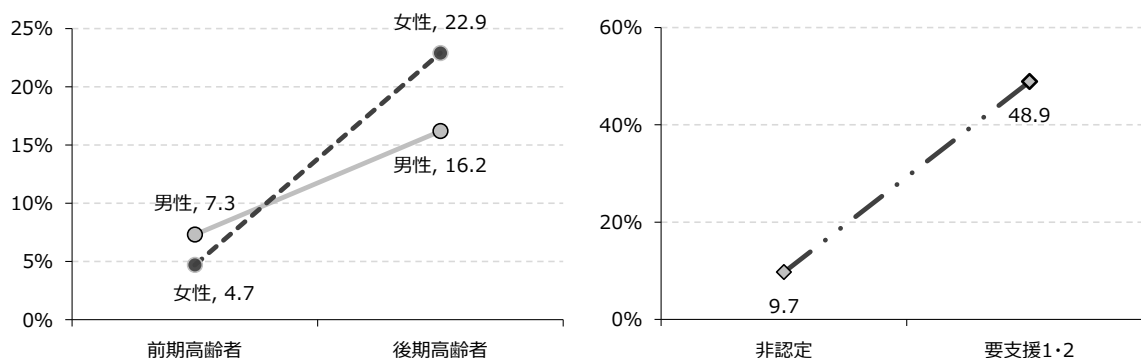
運動器機能の低下している高齢者割合の全体平均は13.5%で、性・年齢別でみると、前期高齢者では性別に大きな差異はみられないが、後期高齢者では女性が男性よりも6.7ポイント高く、女性は前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いが大きい。

認定状況別でみると、非認定で9.7%、要支援1・2で48.9%となっている。

【図表13】運動器機能の低下している高齢者割合



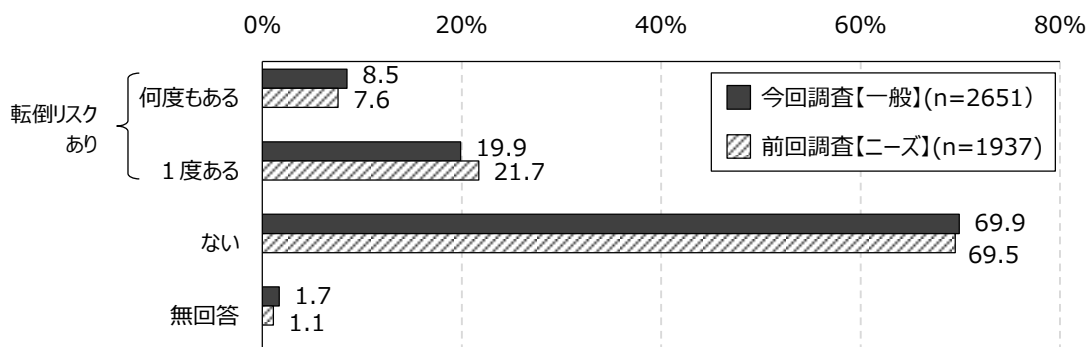
【図表14】運動器機能の低下している高齢者割合〈性・年齢別／認定状況別〉



問12 過去1年間に転んだ経験がありますか。

過去1年間に転んだ経験について、「何度もある」(8.5%)と「1度ある」(19.9%)を合わせた“転倒リスクあり”は28.4%となっている。

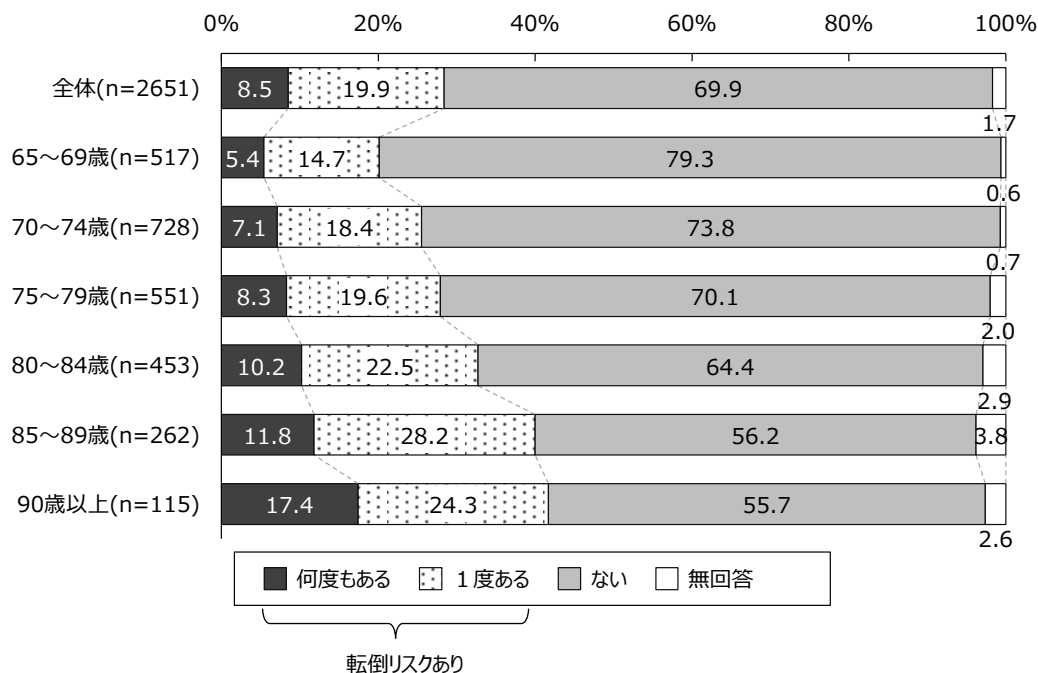
【図表 15】 過去1年間に転んだ経験〈前回比較〉



■過去1年間に転んだ経験〈年齢別〉

過去1年間に転んだ経験について、年齢別にみると年齢が上がるにつれて“転倒リスクあり”の割合が高くなっている。

【図表 16】 過去1年間に転んだ経験〈年齢別〉



◆各種リスクの状況

■転倒リスクのある高齢者割合

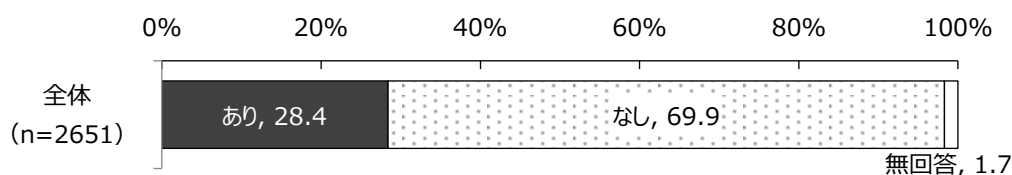
問 12 過去1年間に転んだ経験がありますか（「何度もある」「1度ある」）

※過去1年間の転倒経験で、「何度もある」、「1度ある」と回答している場合、転倒リスクのある高齢者と判定。

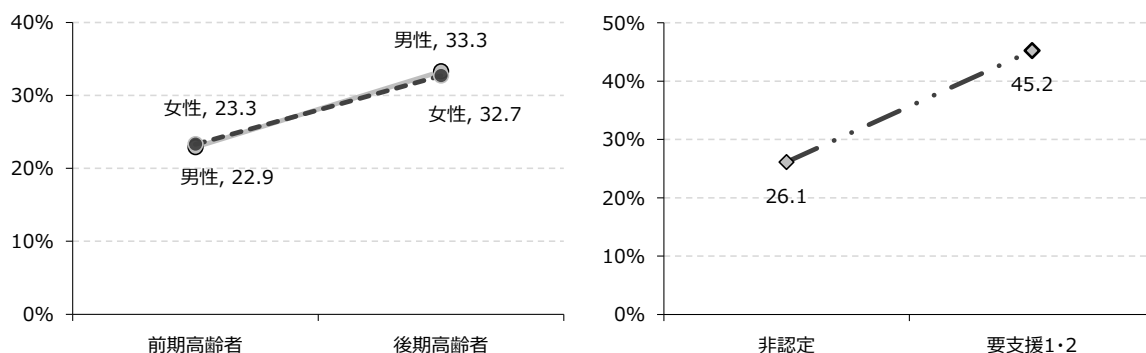
転倒リスクのある高齢者割合の全体平均は28.4%で、性・年齢別でみると、前期高齢者、後期高齢者ともに性別による大きな差異はみられない。また、前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いでも性別で大きな差異はみられない。

認定状況別でみると、非認定で26.1%、要支援1・2で45.2%となっている。

【図表 17】 転倒リスクのある高齢者割合



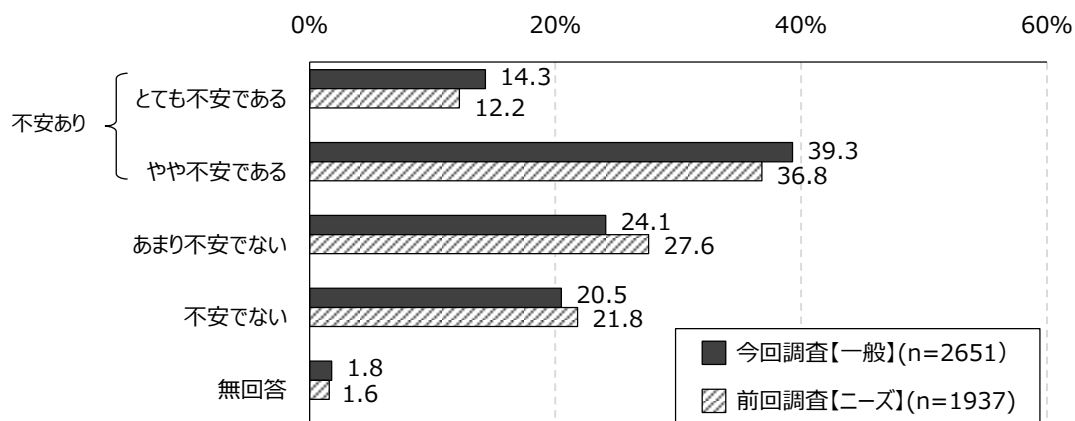
【図表 18】 転倒リスクのある高齢者割合〈性・年齢別／認定状況別〉



問13 転倒に対する不安は大きいですか。

転倒に対する不安について、「とても不安である」(14.3%)と「やや不安である」(39.3%)を合わせた“不安あり”は53.6%となっている。

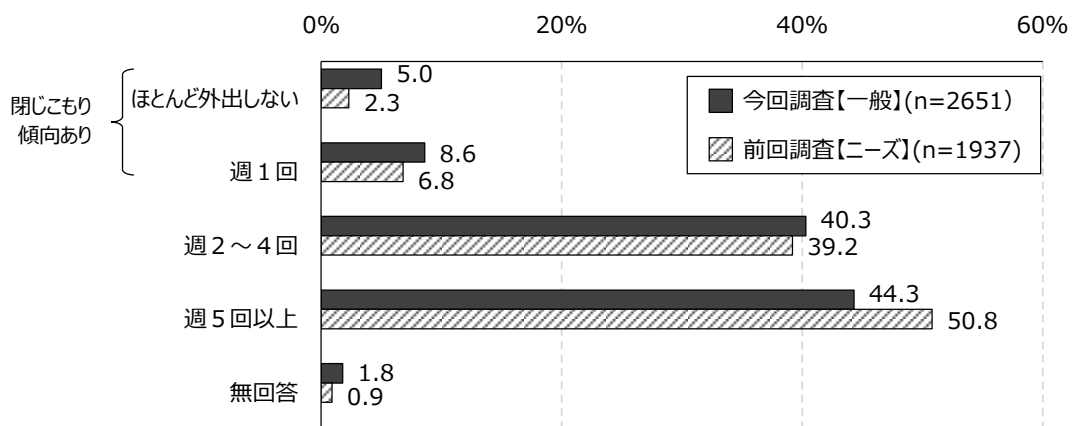
【図表 19】 転倒に対する不安〈前回比較〉



問14 週に1回以上は外出していますか。

1週間の外出頻度について、「週5回以上」が44.3%と最も多く、次いで「週2～4回」が40.3%、「週1回」が8.6%となっている。

【図表 20】 週1回以上の外出〈前回比較〉



◆各種リスクの状況

■閉じこもり傾向のある高齢者割合

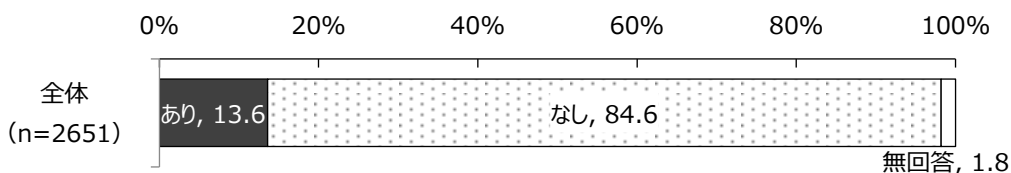
問 14 週に1回以上は外出していますか（「ほとんど外出しない」「週1回」）

※1週間の外出状況で「ほとんど外出しない」、「週1回」と回答している場合に、閉じこもり傾向のある高齢者と判定。

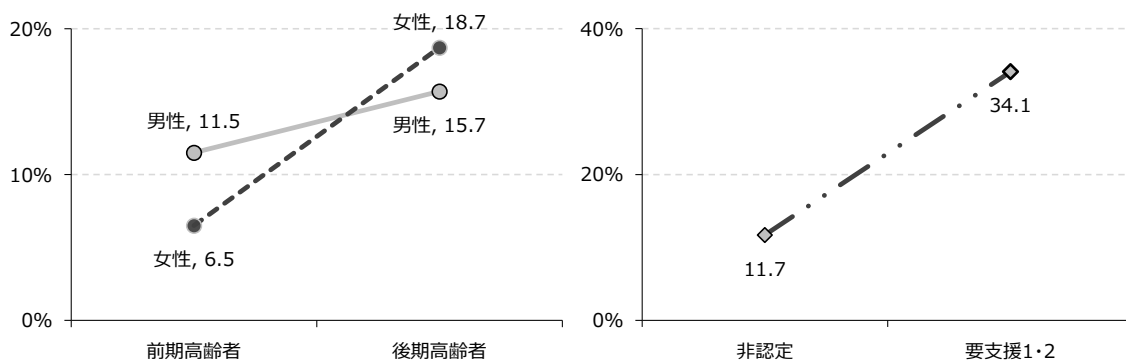
閉じこもり傾向のある高齢者割合の全体平均は13.6%で、性・年齢別で見ると、前期高齢者では女性が男性よりも5ポイント低く、後期高齢者では女性が男性よりも3ポイント高くなっている。女性は前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いが大きい。

認定状況別で見ると、非認定で11.7%、要支援1・2で34.1%となっている。

【図表 21】閉じこもり傾向のある高齢者割合



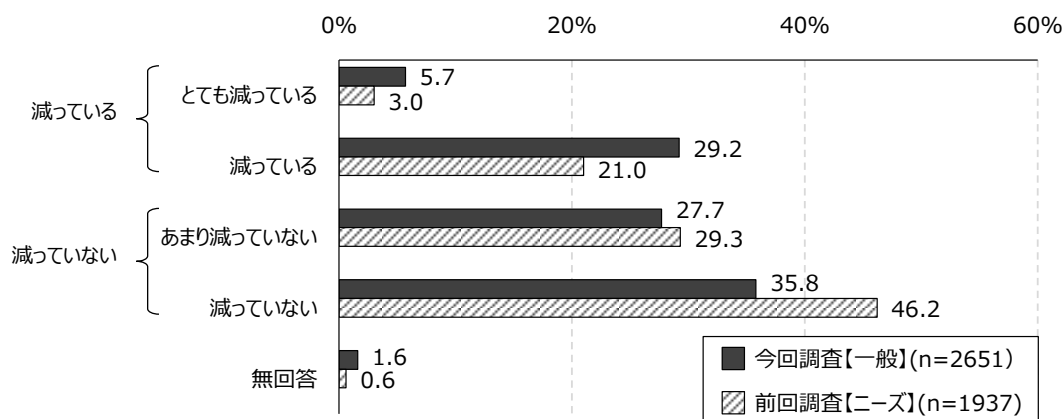
【図表 22】閉じこもり傾向のある高齢者割合〈性・年齢別／認定状況別〉



問15 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

昨年と比較して外出回数が減っているかについて、「とても減っている」(5.7%)と「減っている」(29.2%)を合わせた”減っている“は34.9%となっている。一方、「あまり減っていない」(27.7%)と「減っていない」(35.8%)を合わせた”減っていない“は63.5%となっている。

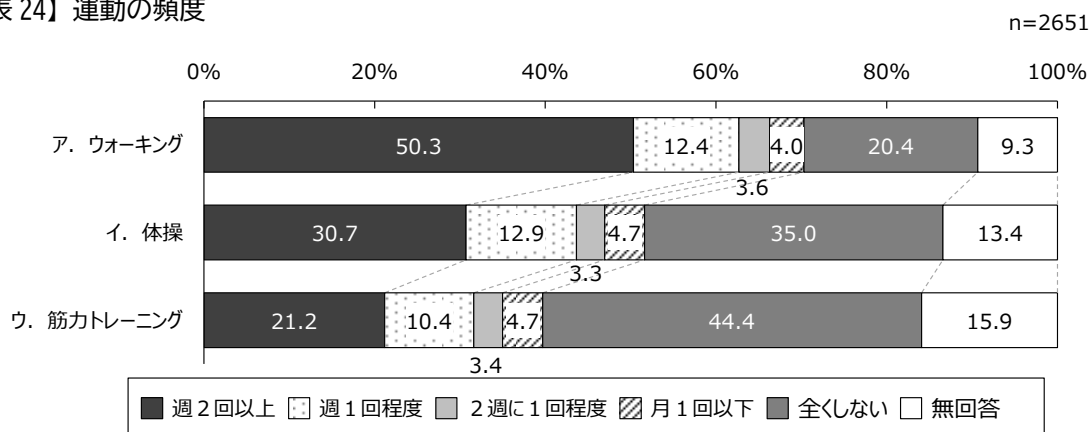
【図表 23】 昨年と比較した外出回数 <前回比較>



問16 あなたは以下の運動をそれぞれどのくらいの頻度でしていますか。

運動の頻度について、ア.ウォーキングでは、「週2回以上」が50.3%と最も多くなっている。イ.体操では、「週2回以上」が30.7%となっており、「全くしない」が35.0%となっている。ウ.筋力トレーニングでは、「週2回以上」が21.2%となっており、「全くしない」が44.4%となっている。

【図表 24】 運動の頻度

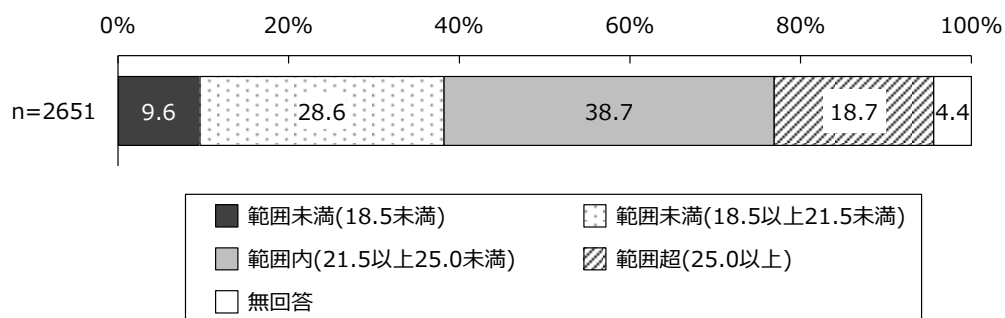


食べることについて

問17 身長・体重を教えてください。(BMI)

身長と体重からBMIを算出し目標とするBMIの範囲の分布をみると、「範囲内(21.5以上25.0未満)」が38.7%と最も多く、次いで「範囲未満(18.5以上21.5未満)」が28.6%、「範囲超(25.0以上)」が18.7%となっている。

【図表 25】 BMI



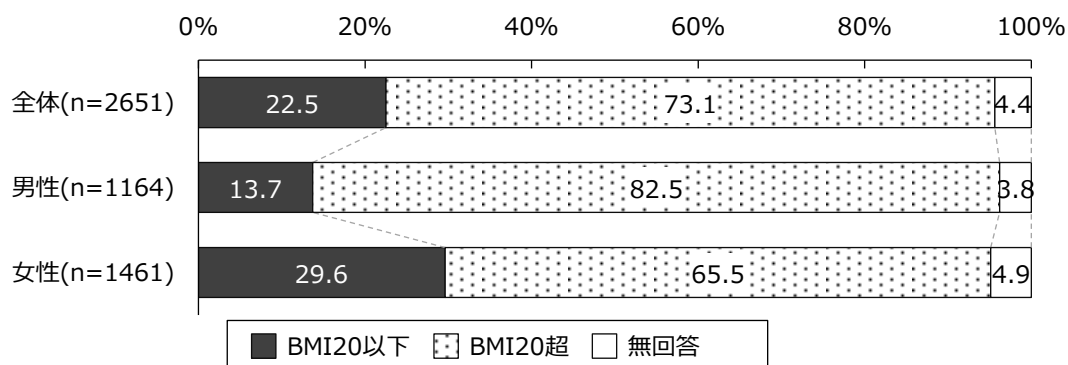
※BMIは体重(kg)÷身長(m)×身長(m)で算出される体重(体格)の指標であり、厚生労働省「日本人の食事摂取基準(2020年版)」策定検討会報告書では、65歳以上の目標とするBMIの範囲を21.5~24.9kg/m²としている。

■BMI(低栄養傾向BMI≤20)〈性別〉

低栄養傾向と考えられる「BMI20以下」は全体で22.5%となっている。

性別にみると、「BMI20以下」(男性:13.7%・女性:29.6%)は、女性の方が男性よりも15.9ポイント高くなっている。

【図表 26】 BMI(低栄養傾向 BMI≤20)〈性別〉

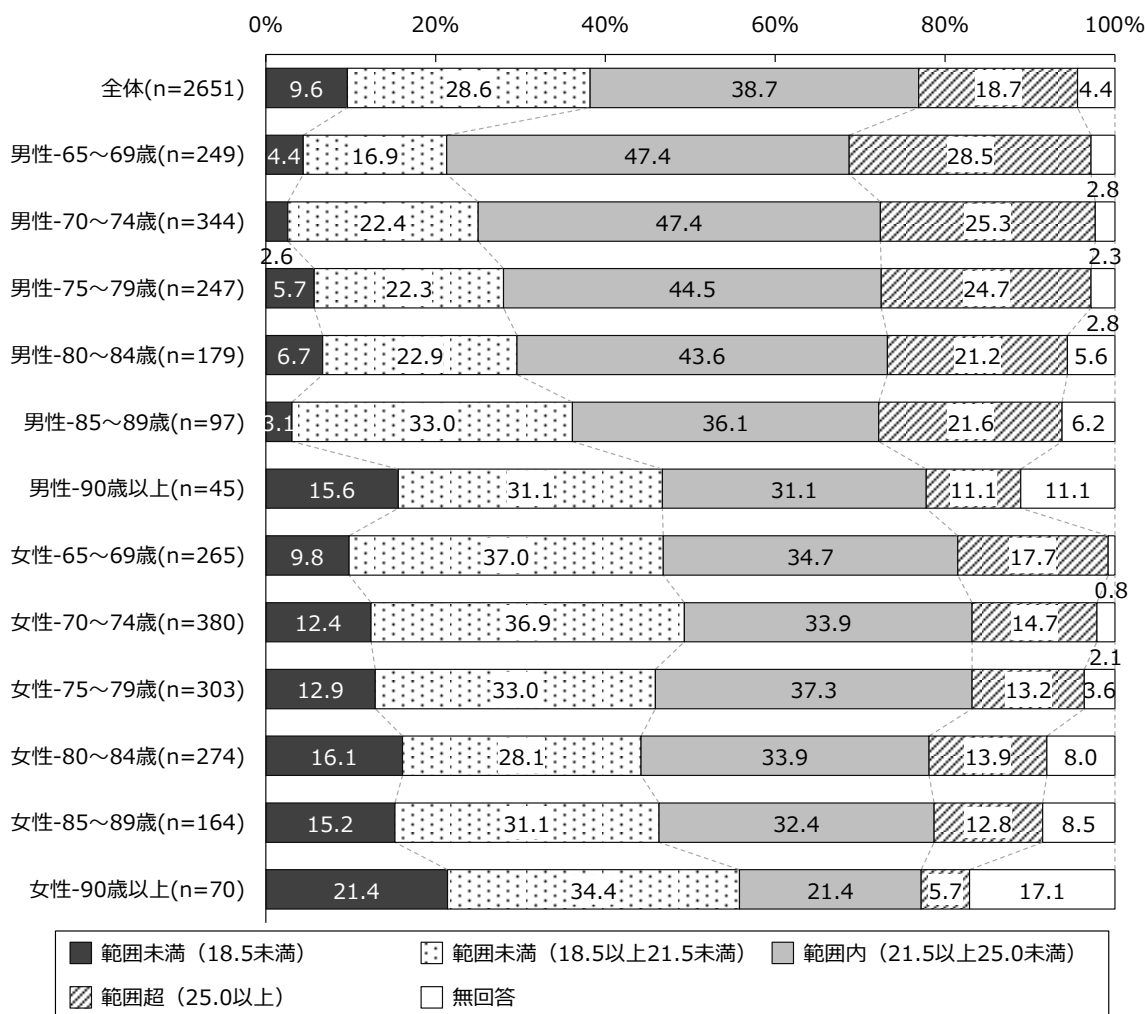


※厚生労働省「健康日本21(第二次)」では、低栄養傾向の基準を、要介護や総死亡リスクが統計学的に優位に高くなるポイントとして示されている「BMI20以下」とし、その割合の増加の抑制を指標として設定している。

■BMI（目標とするBMIの範囲）〈性・年齢別〉

BMIを性・年齢別にみると、年齢にかかわらず「範囲未満（18.5未満）」と「範囲未満（18.5以上21.5未満）」を合わせた割合は男性よりも女性の方が高く、「範囲超（25.0以上）」の割合は女性よりも男性の方が高い。

【図表 27】 BMI（目標とするBMIの範囲）〈性・年齢別〉



問18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

問19 お茶や汁物等でむせることがありますか。

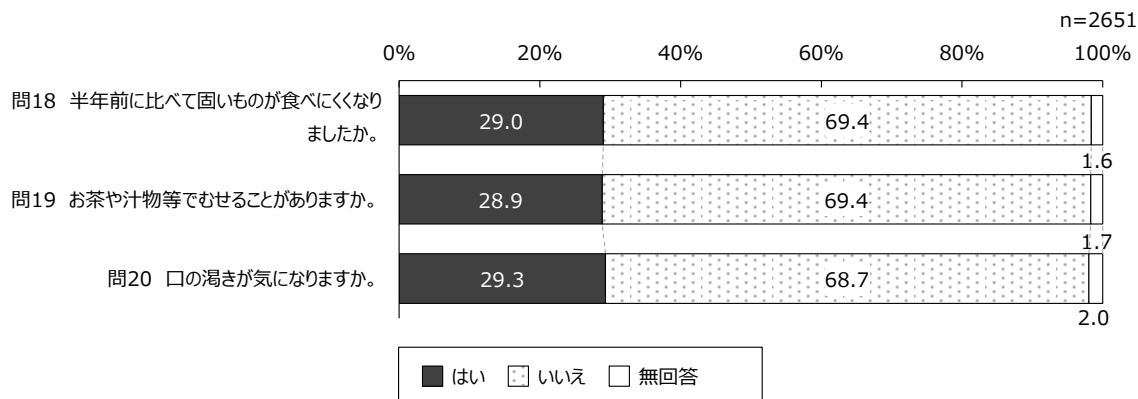
問20 口の渇きが気になりますか。

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかでは、「はい」が29.0%、「いいえ」が69.4%となっている。

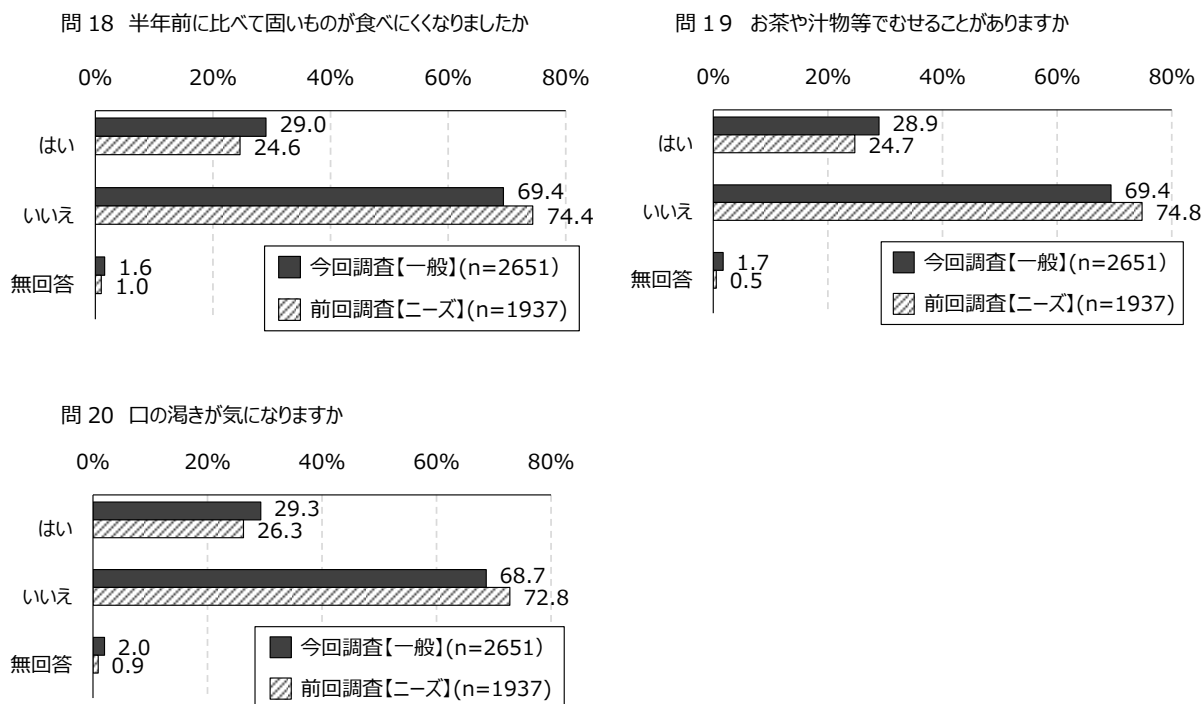
お茶や汁物等でむせることがあるかでは、「はい」が28.9%、「いいえ」が69.4%となっている。

口の渇きが気になるかでは、「はい」が29.3%、「いいえ」が68.7%となっている。

【図表 28】 口腔機能について



【図表 29】 口腔機能について〈前回比較〉



◆各種リスクの状況

■口腔機能が低下している高齢者割合

問 18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（「はい」）

問 19 お茶や汁物等でむせることがありますか（「はい」）

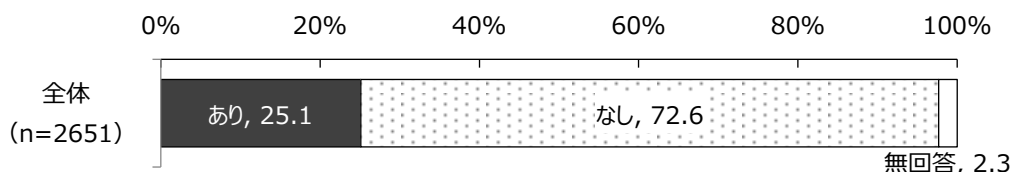
問 20 口の渇きが気になりますか（「はい」）

※「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」の設問で「はい」と回答した場合には、「咀嚼機能が低下が疑われる高齢者」と判定。さらに「お茶や汁物等でむせることがありますか」と「口の渇きが気になりますか」を加えた3設問のうち2設問で「はい」と回答した場合に、「口腔機能の低下あり」と判定。

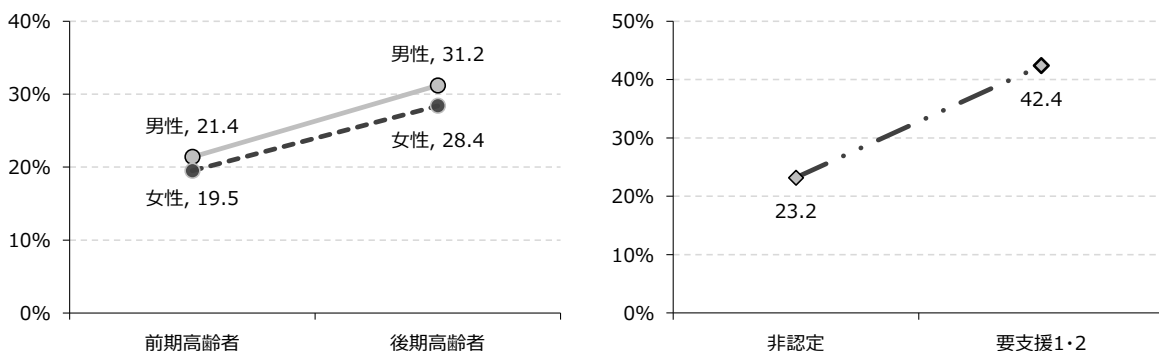
口腔機能が低下している高齢者割合の全体平均は25.1%で、性・年齢別でみると、前期高齢者、後期高齢者ともに男性が女性よりも高いが、前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いに性別で大きな差異はみられない。

認定状況別でみると、非認定で23.2%、要支援1・2で42.4%となっている。

【図表 30】口腔機能が低下している高齢者割合



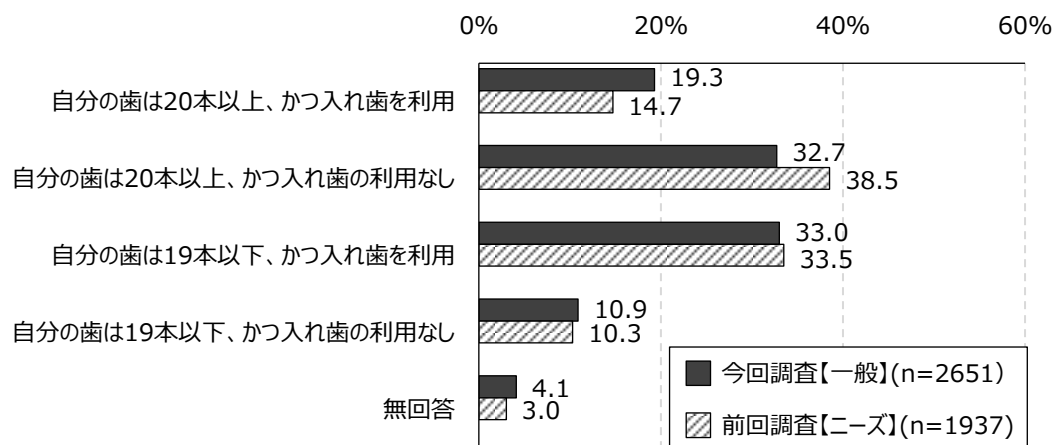
【図表 31】口腔機能が低下している高齢者割合〈性・年齢別／認定状況別〉



問21 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が33.0%と最も多く、次いで「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯の利用なし」が32.7%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が19.3%となっている。

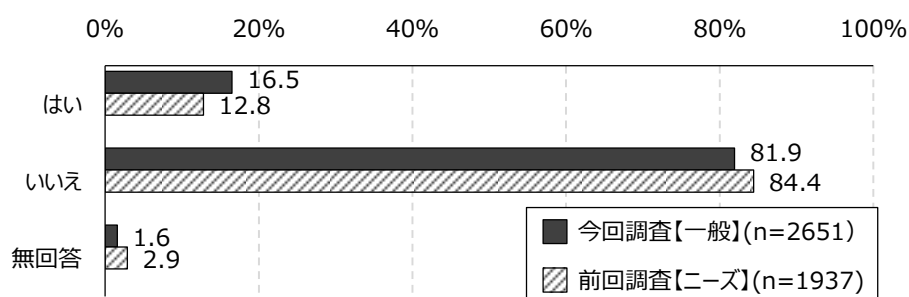
【図表 32】 歯の数と入れ歯の利用状況（前回比較）



問22 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「はい」が16.5%、「いいえ」が81.9%となっている。

【図表 33】 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか（前回比較）



◆各種リスクの状況

■直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合

問 17 身長・体重 (BMI (体重 kg ÷ (身長 m × 身長 m)) 18.5 未満)

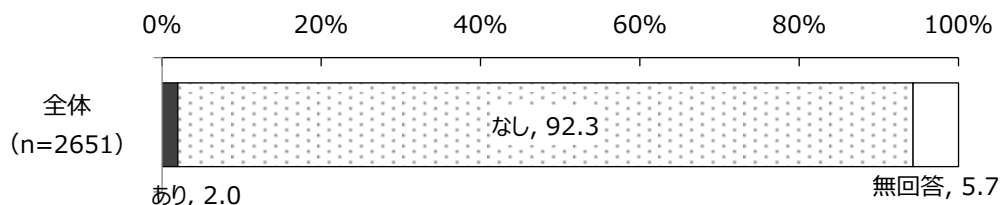
問 22 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか (「はい」)

※身長と体重から算出される BMI (体重 kg ÷ (身長 m × 身長 m)) が、18.5 未満の場合に低栄養が疑われる高齢者となり、かつ、直近の6か月間に2～3kg以上の体重減少があった場合に、「直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある」と判定。

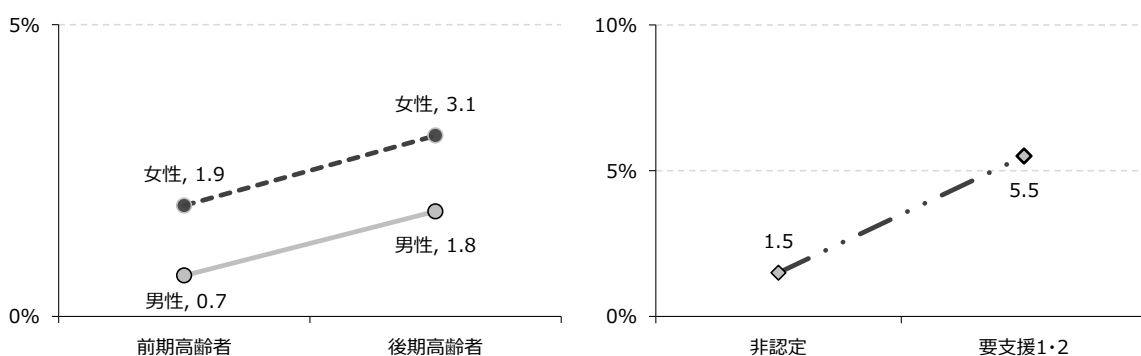
直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合の全体平均は2.0%で、性・年齢別で見ると、女性が男性よりも高いが、前期高齢者と後期高齢者間の増加の割合に性別で大きな差異はみられない。

認定状況別で見ると、非認定で1.5%、要支援1・2で5.5%となっている。

【図表 34】直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合



【図表 35】直近6か月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合
(性・年齢別/認定状況別)

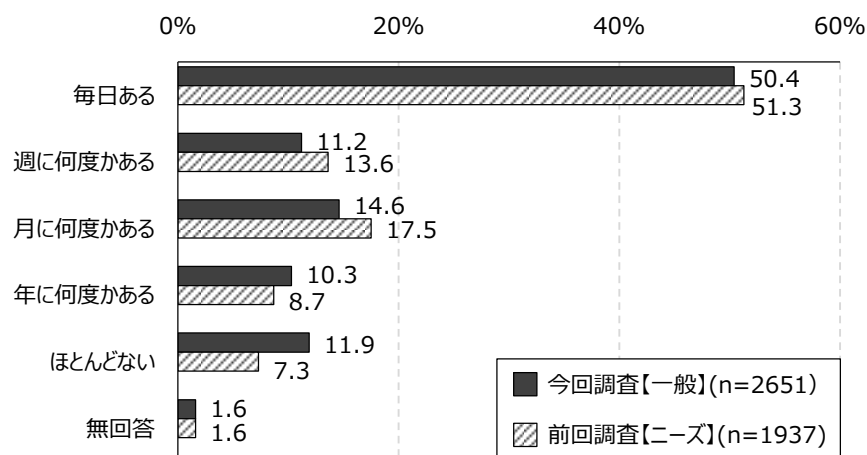


※低栄養傾向 BMI ≤ 20 かつ、直近の6か月間に2～3kg以上の体重減少があった高齢者の割合をみると、全体で4.2%、性・年齢別で見ると男性の前期高齢者では1.7%、男性の後期高齢者では5.1%、女性の前期高齢者では4.3%、女性の後期高齢者では5.4%となっている。認定状況別で見ると非認定で3.6%、要支援1・2で10.6%となっている。

問23 どなたかと食事をともにする機会がありますか。

どなたかと食事をともにする機会の有無については、「毎日ある」が50.4%と最も多く、次いで「月に何度かある」が14.6%、「ほとんどない」が11.9%となっている。

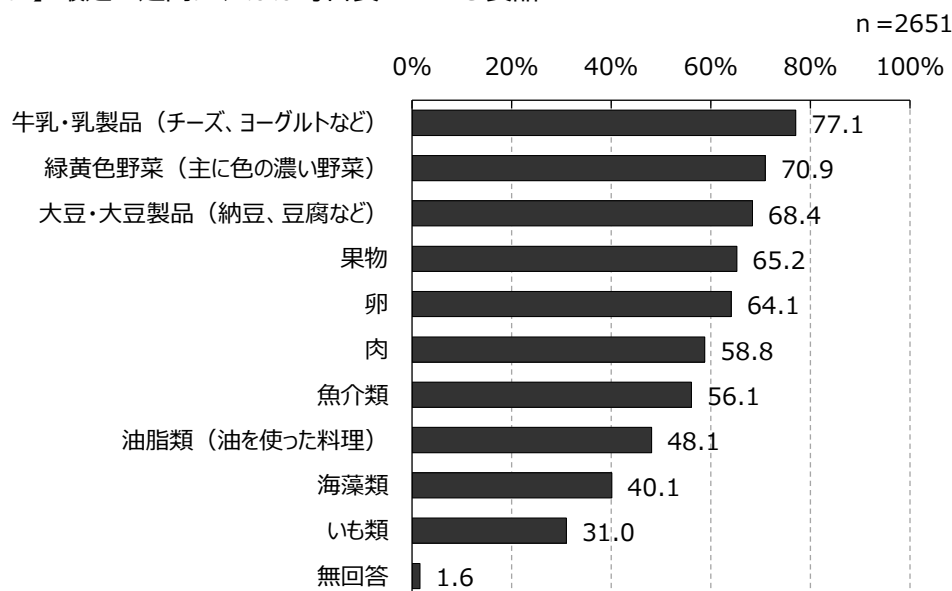
【図表 36】食事をともにする機会の有無〈前回比較〉



問24 最近一週間のうち、ほぼ毎日食べている食品に○をしてください。(複数回答)

最近一週間のうち、ほぼ毎日食べている食品については、「牛乳・乳製品（チーズ、ヨーグルトなど）」が77.1%と最も多く、次いで「緑黄色野菜（主に色の濃い野菜）」が70.9%、「大豆・大豆製品（納豆、豆腐など）」が68.4%となっている。

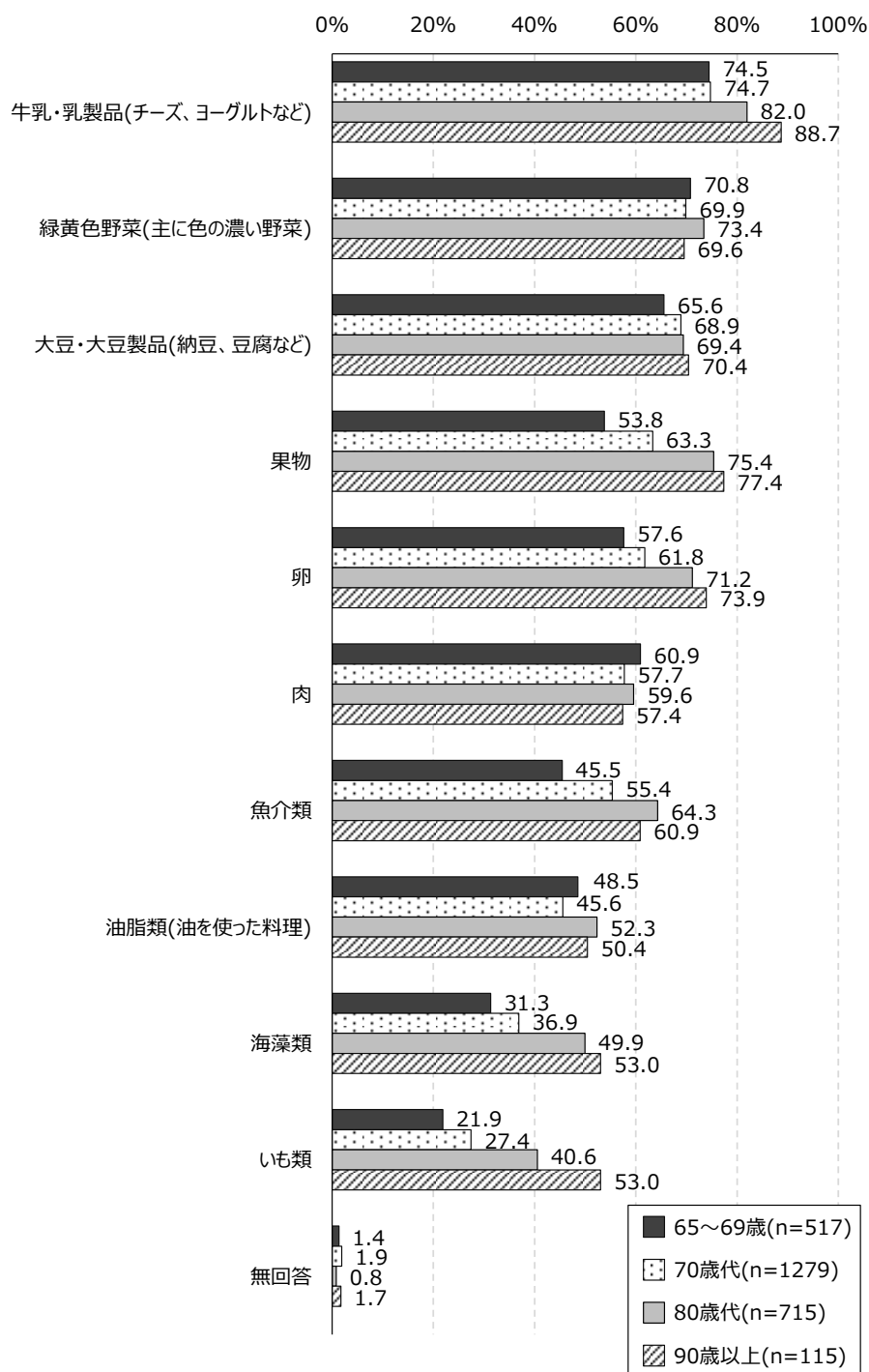
【図表 37】最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品



■最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品〈年齢別〉

最近一週間のうち、ほぼ毎日食べている食品について年齢別にみると、「牛乳・乳製品」は年齢にかかわらず7割台半ば近くから9割近くが摂取している。また、「牛乳・乳製品」、「果物」、「卵」、「海藻類」、「いも類」は年齢が上がるにつれ摂取している割合が高い傾向がみられる。

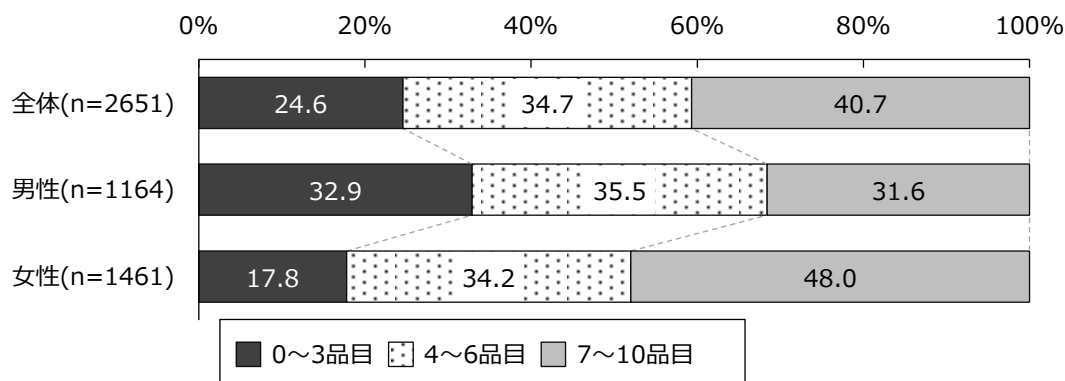
【図表 38】最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品 〈年齢別〉



■最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品数〈性別〉

最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品の数を性別で見ると、「7～10品目」の割合は女性の方が男性より高くなっている。

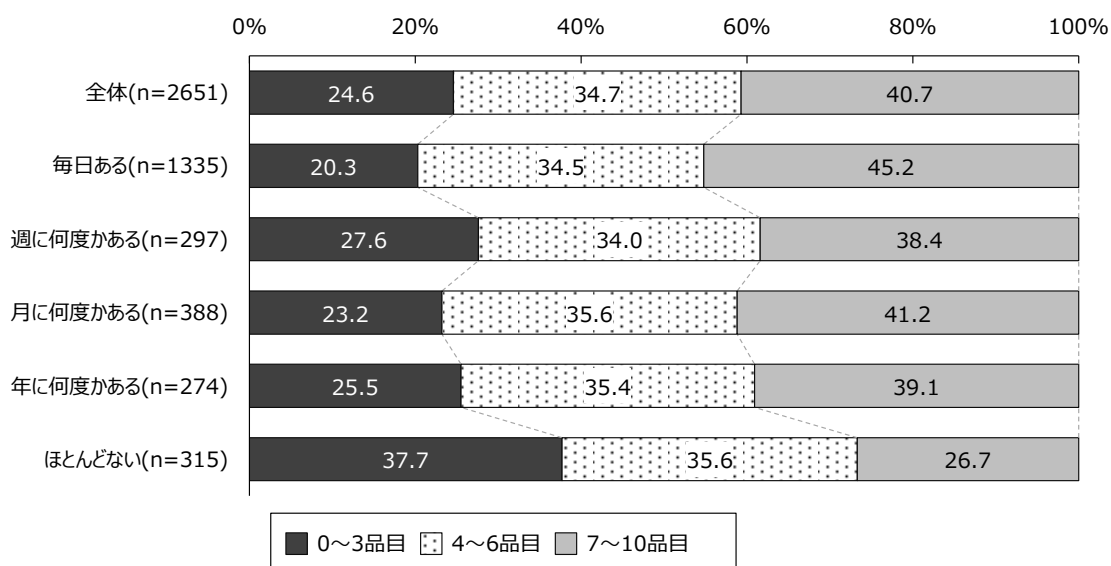
【図表 39】最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品数〈性別〉



■最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品数〈食事をともにする機会の有無別〉

だれかと食事をともにする機会が多い人ほど、「7～10品目」を摂取している割合が高い傾向がみられる。

【図表 40】最近一週間に、ほぼ毎日食べている食品数〈問 23 食事をともにする機会の有無別〉

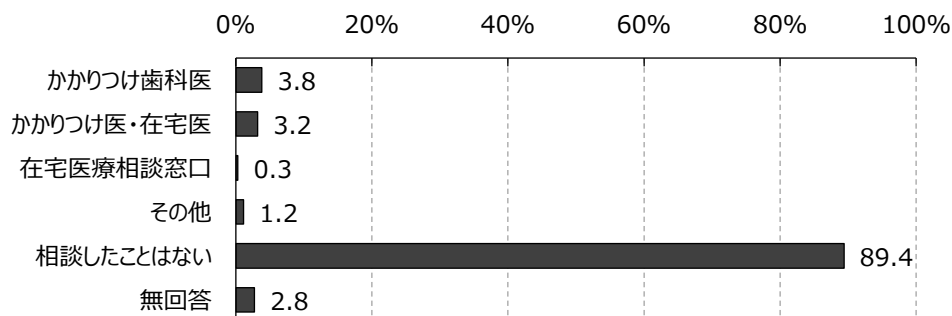


問25 摂食嚥下(食べたり、飲み込んだりすること)についてどこかに相談したことがありますか。(複数回答)

摂食嚥下についてどこかに相談したことがあるかについては、「相談したことはない」が89.4%と最も多く、次いで「かかりつけ歯科医」が3.8%、「かかりつけ医・在宅医」が3.2%となっている。

【図表 41】 摂食嚥下についての相談先

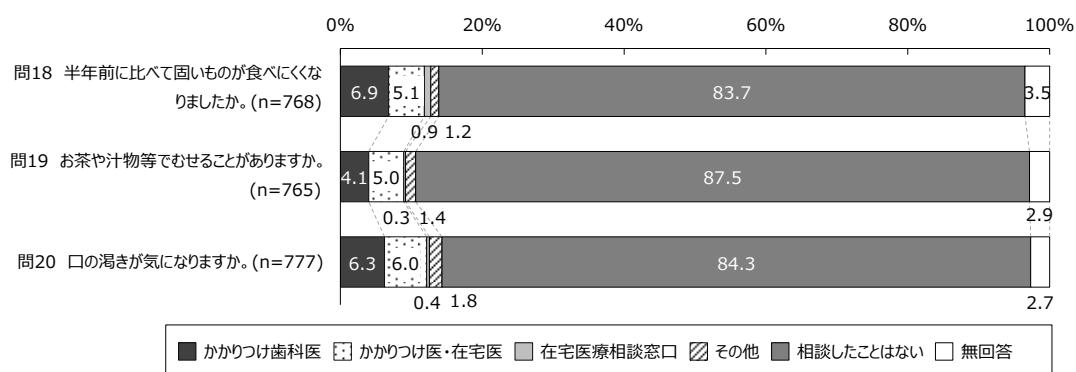
n = 2651



■ 摂食嚥下についての相談先<口腔機能別>

摂食嚥下についての相談先を口腔機能別にみると、いずれも『はい』と回答した人のうち「相談したことはない」の割合が8割を超えている。

【図表 42】 摂食嚥下についての相談先 <問 18~20 口腔機能の設問で「はい」と回答した人別>



日ごろの生活について

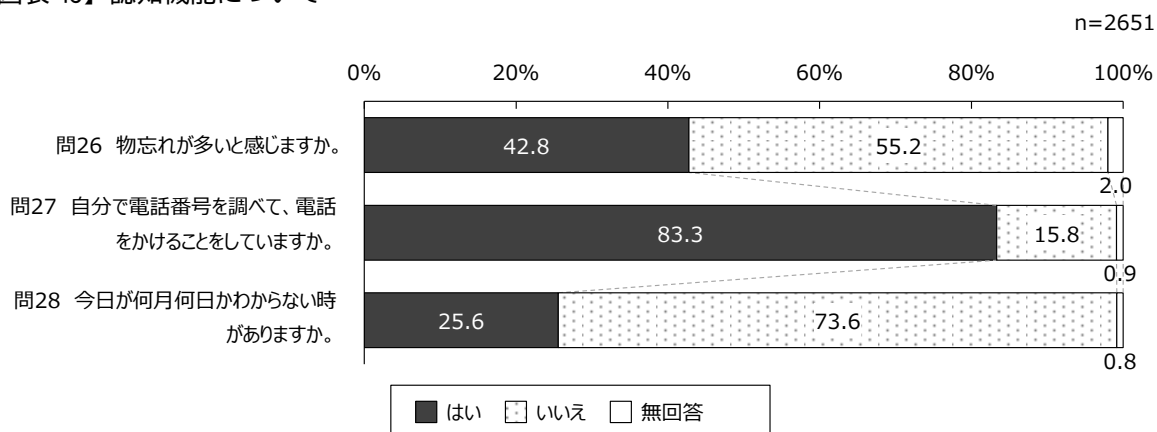
問26 物忘れが多いと感じますか。

問27 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

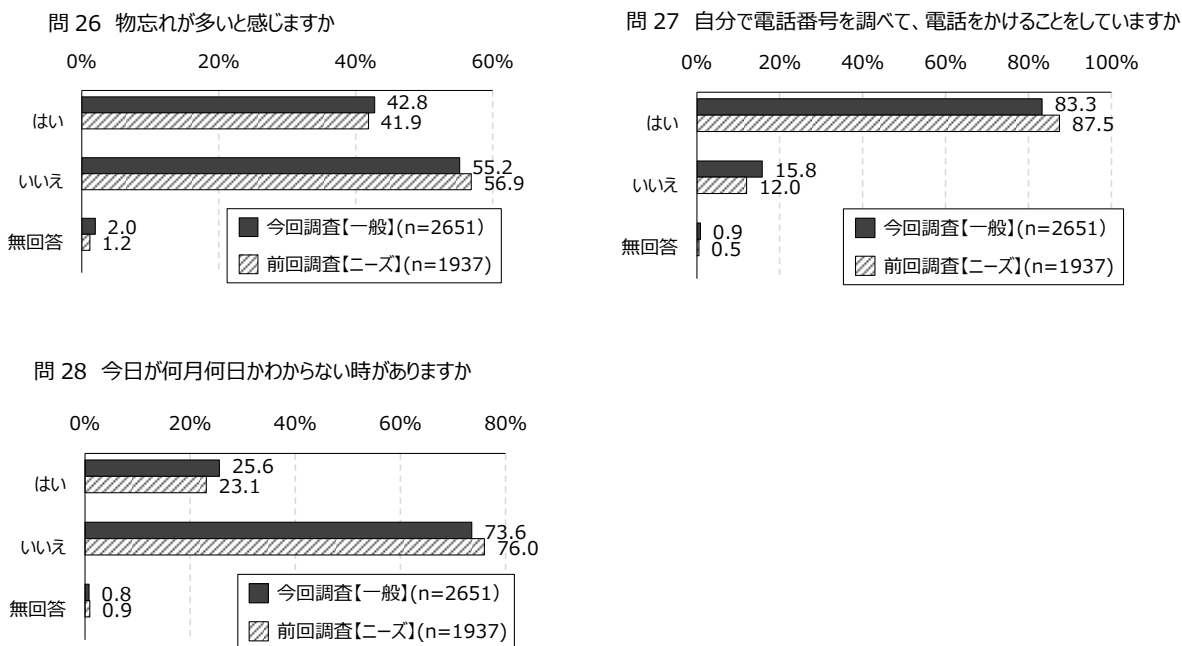
問28 今日が何月何日かわからない時がありますか。

物忘れが多いと感じるかでは、「はい」が42.8%、「いいえ」が55.2%となっている。自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかでは、「はい」が83.3%、「いいえ」が15.8%となっている。今日が何月何日かわからない時があるかでは、「はい」が25.6%、「いいえ」が73.6%となっている。

【図表 43】 認知機能について



【図表 44】 認知機能について <前回比較>



◆各種リスクの状況

■認知機能が低下している高齢者割合

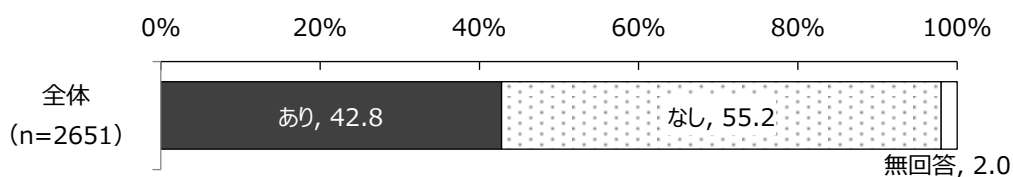
問 26 物忘れが多いと感じますか (「はい」)

※認知機能については、「はい」と回答している場合に、「認知機能の低下あり」と判定。

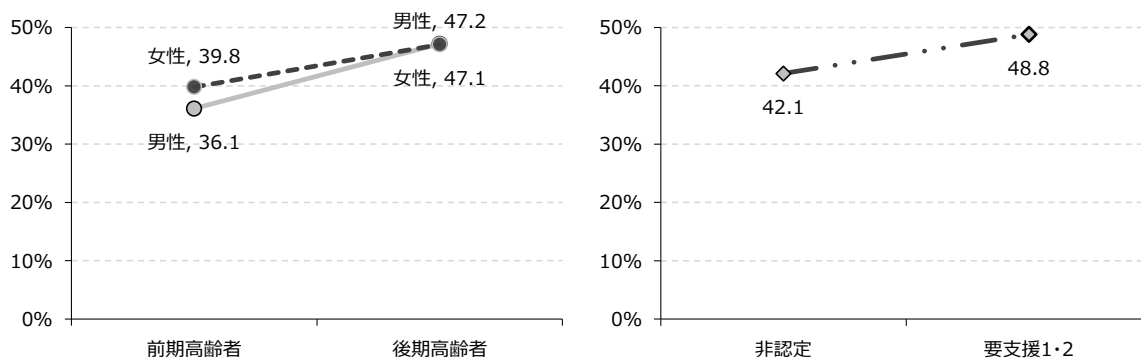
認知機能が低下している高齢者割合の全体平均は42.8%で、性・年齢別で見ると、女性は前期高齢者で男性よりも3.7ポイント高いが、後期高齢者では大きな差異はみられない。男性は前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いが女性よりも大きい。

認定状況別で見ると、非認定で42.1%、要支援1・2で48.8%となっている。

【図表 45】 認知機能が低下している高齢者割合



【図表 46】 認知機能が低下している高齢者割合 (性・年齢別/認定状況別)



問29 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)

問30 自分で食品・日用品の買物をしていますか。

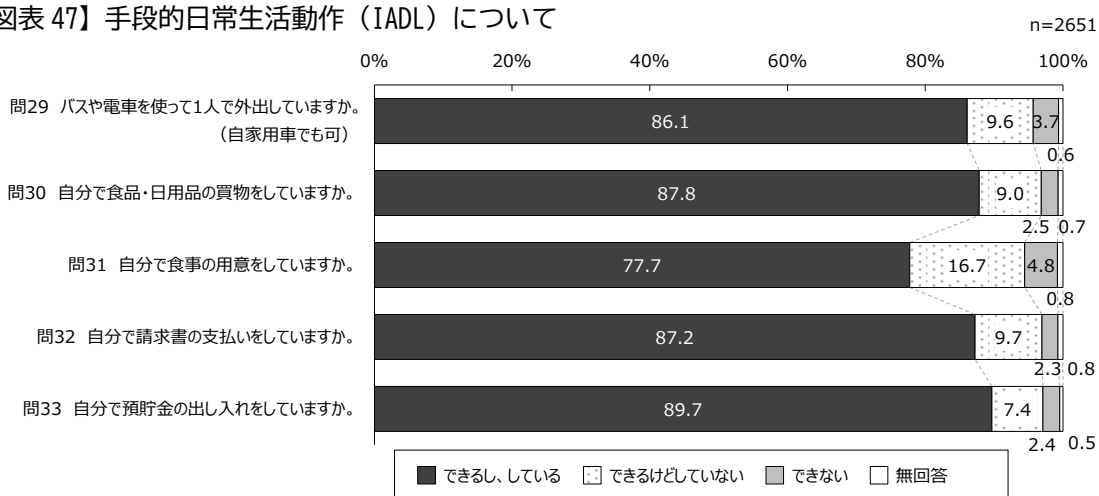
問31 自分で食事の用意をしていますか。

問32 自分で請求書の支払いをしていますか。

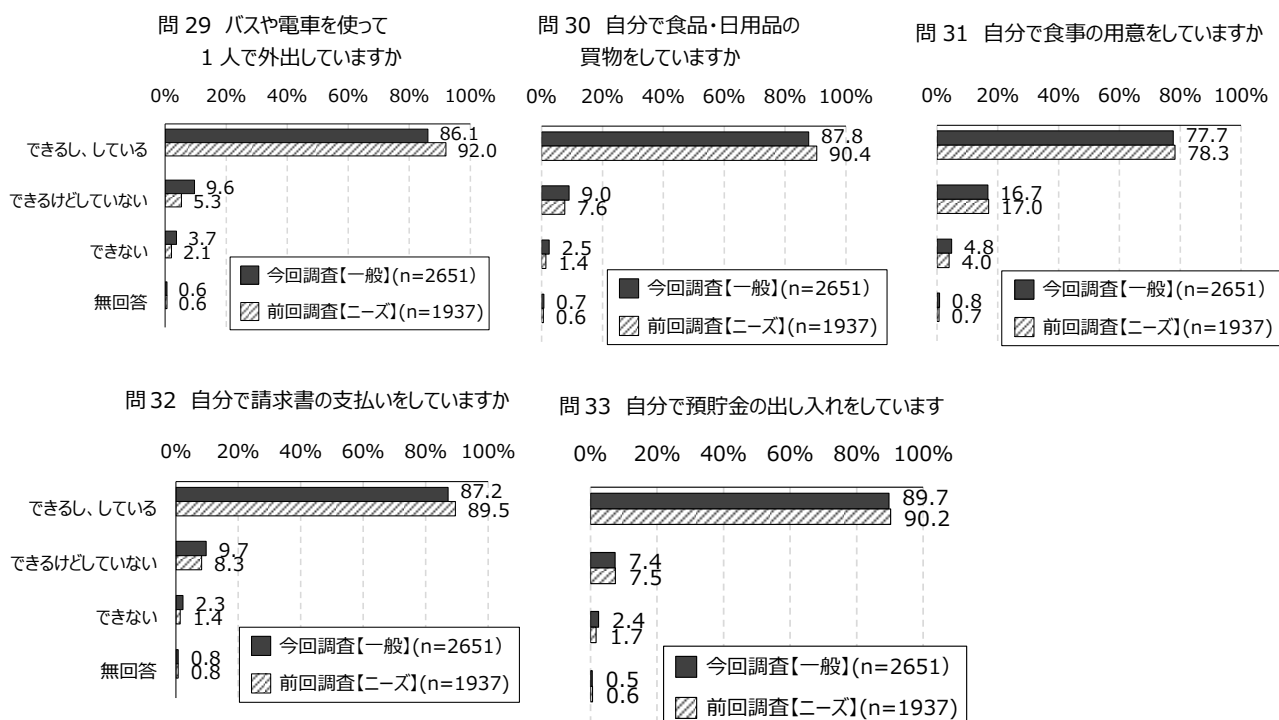
問33 自分で預貯金の出し入れをしていますか。

バスや電車を使って1人で外出しているかでは、「できるし、している」が86.1%となっている。自分で食品・日用品の買物をしているかでは、「できるし、している」が87.8%となっている。自分で食事の用意をしているかでは、「できるし、している」が77.7%となっている。自分で請求書の支払いをしているかでは、「できるし、している」が87.2%となっている。自分で預貯金の出し入れをしているかでは、「できるし、している」が89.7%となっている。

【図表 47】 手段的日常生活動作 (IADL) について



【図表 48】 手段的日常生活動作 (IADL) について <前回比較>



◆各種リスクの状況

■手段的日常生活動作(IADL)が低下している高齢者割合

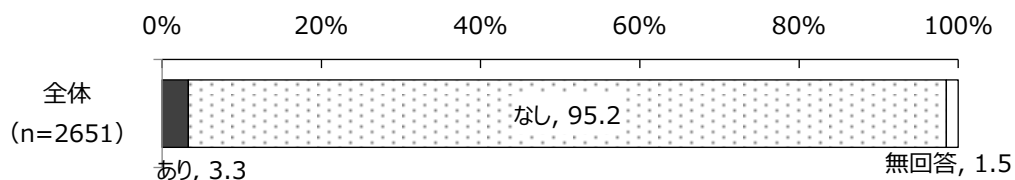
- 問 29 バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）（「できるし、している」「できるけどしていない」）
- 問 30 自分で食品・日用品の買物をしていますか（「できるし、している」「できるけどしていない」）
- 問 31 自分で食事の用意をしていますか（「できるし、している」「できるけどしていない」）
- 問 32 自分で請求書の支払いをしていますか（「できるし、している」「できるけどしていない」）
- 問 33 自分で預貯金の出し入れをしていますか（「できるし、している」「できるけどしていない」）

※各設問について、「できるし、している」か「できるけどしていない」を1点、「できない」を0点と点数化し、5つの設問の合計を判定。判定の区分は5点が「高い」、4点が「やや低い」、0～3点が「低い」となり、「3点以下」は『IADLが低下している高齢者』と判定。

手段的日常生活動作(IADL)が低下している高齢者割合の全体平均は3.3%で、性・年齢別で見ると、前期高齢者、後期高齢者ともに性別による大きな差異はみられない。また、前期高齢者と後期高齢者間の増加の割合でも性別で大きな差異はみられない。

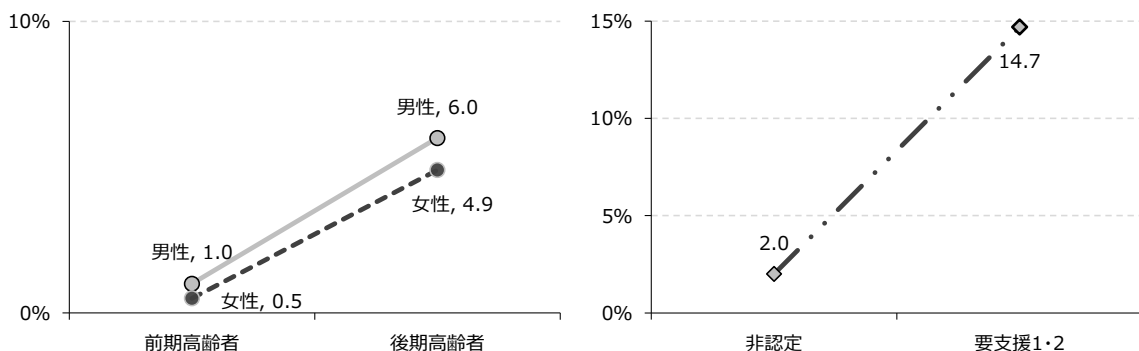
認定状況別で見ると、非認定で2.0%、要支援1・2で14.7%となっている。

【図表 49】手段的日常生活動作(IADL)が低下している高齢者割合



【図表 50】手段的日常生活動作(IADL)が低下している高齢者割合

〈性・年齢別／認定状況別〉



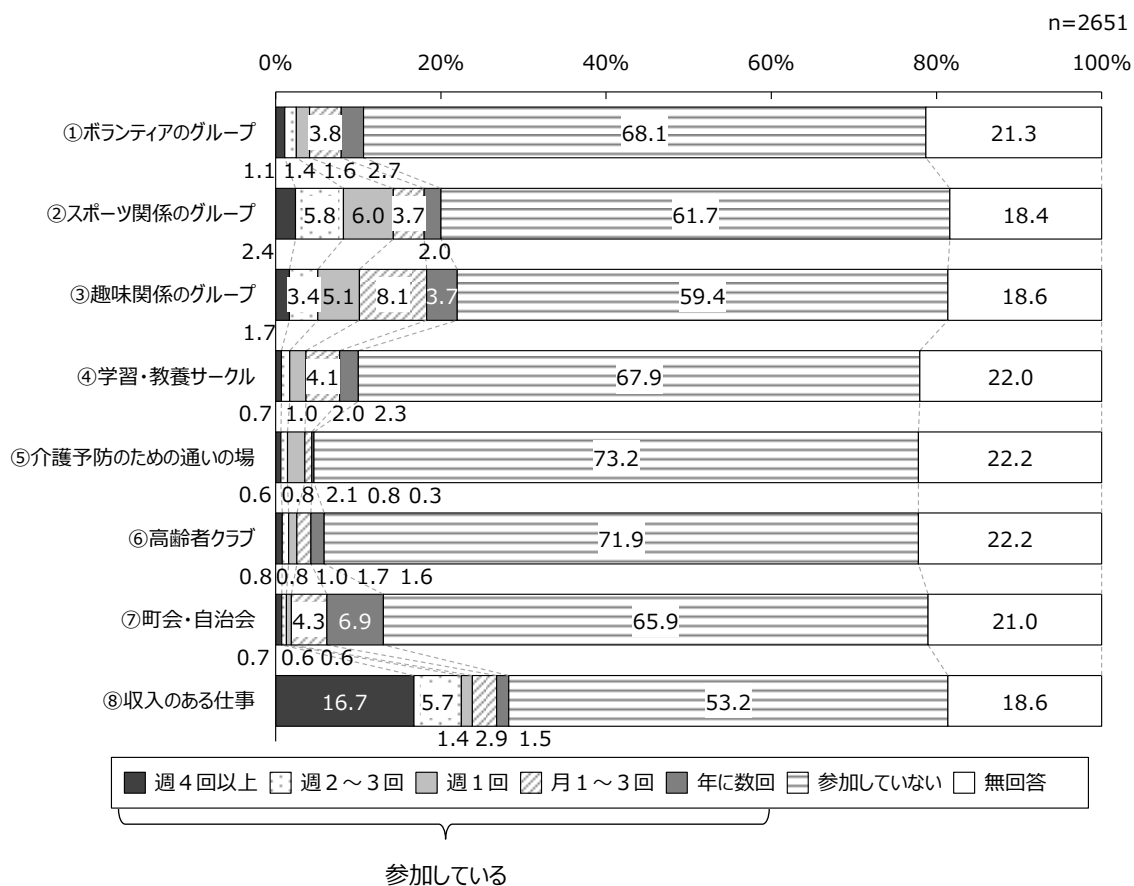
地域での活動について

問34 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

会・グループ等への参加頻度については、すべての会・グループ等で「参加していない」との回答が最も多くなっている。

「週4日以上」から「年に数回」までを合わせた“参加している”は①ボランティアのグループで10.6%、②スポーツ関係のグループで19.9%、③趣味関係のグループで22.0%、④学習・教養サークルで10.1%、⑤介護予防のための通いの場*で4.6%、⑥高齢者クラブで5.9%、⑦町会・自治会で13.1%、⑧収入のある仕事で28.2%となっている。

【図表 51】 会・グループへの参加頻度

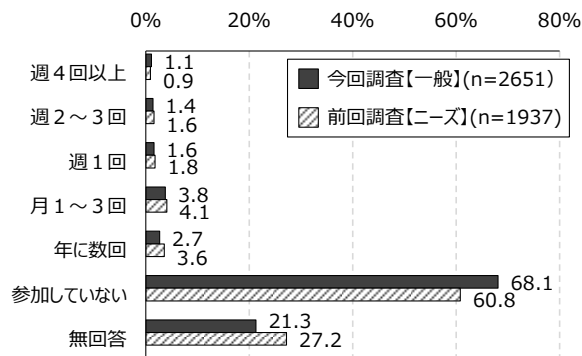


※通いの場：高齢者の身近な場所で介護予防のために活動する「新宿いきいき体操」、「しんじゅく100トレに取り組むグループ」、「通所型住民主体サービスグループ」、「地域安心カフェ」、「ふれあい・いきいきサロン」などを指します。

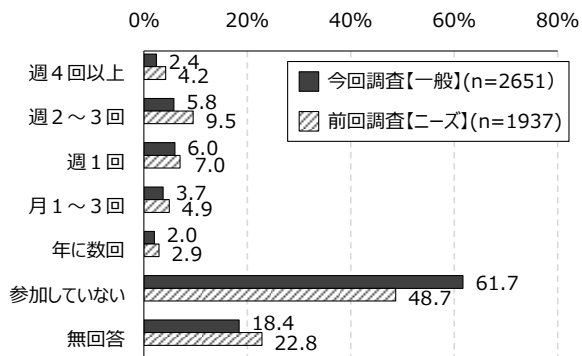
1 一般高齢者+介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【図表 52】 会・グループへの参加頻度（前回比較）

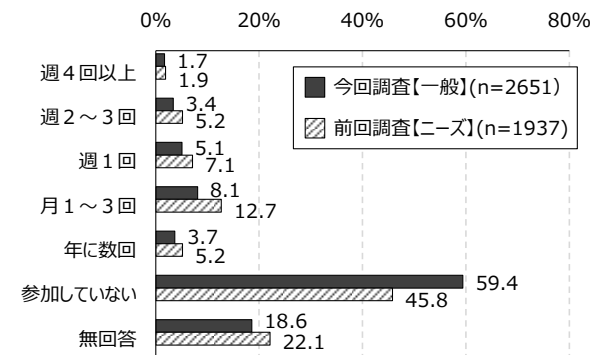
① ボランティアのグループ



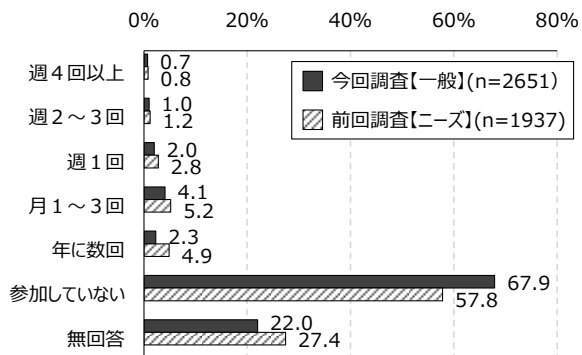
② スポーツ関係のグループ



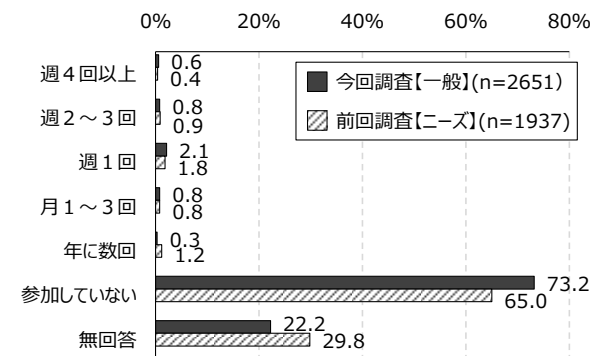
③ 趣味関係のグループ



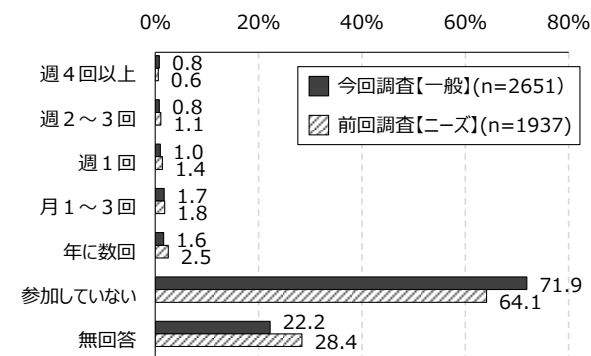
④ 学習・教養サークル



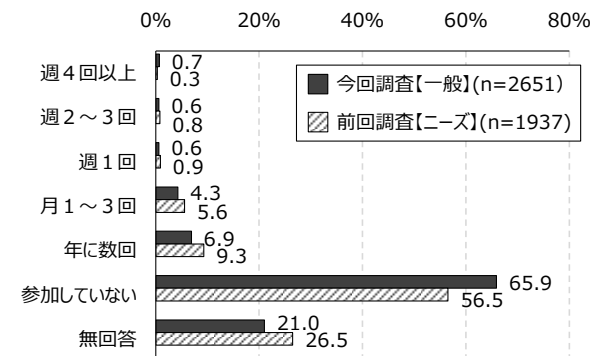
⑤ 介護予防のための通いの場



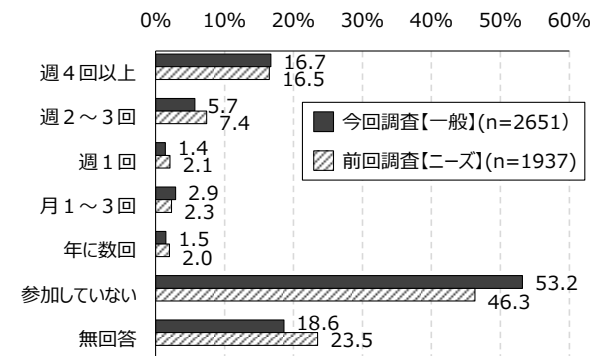
⑥ 高齢者クラブ



⑦ 町会・自治会



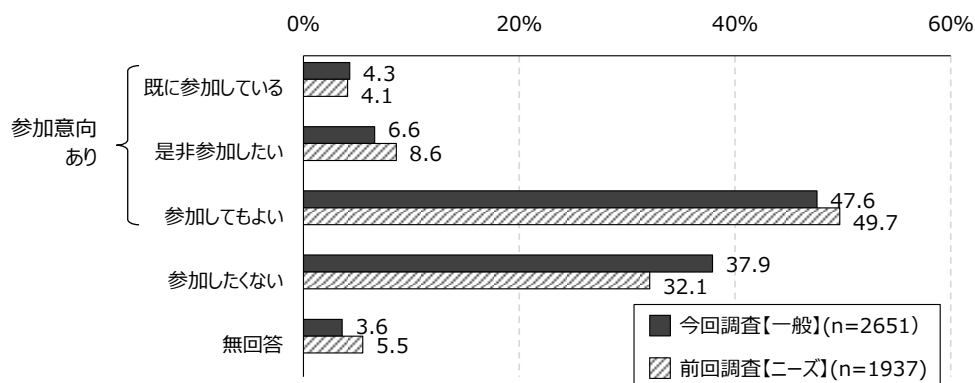
⑧ 収入のある仕事



問35 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

地域住民の有志による地域づくりへの参加者としての参加意向については、「既に参加している」が4.3%、「是非参加したい」が6.6%、「参加してもよい」が47.6%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は58.5%となっている。

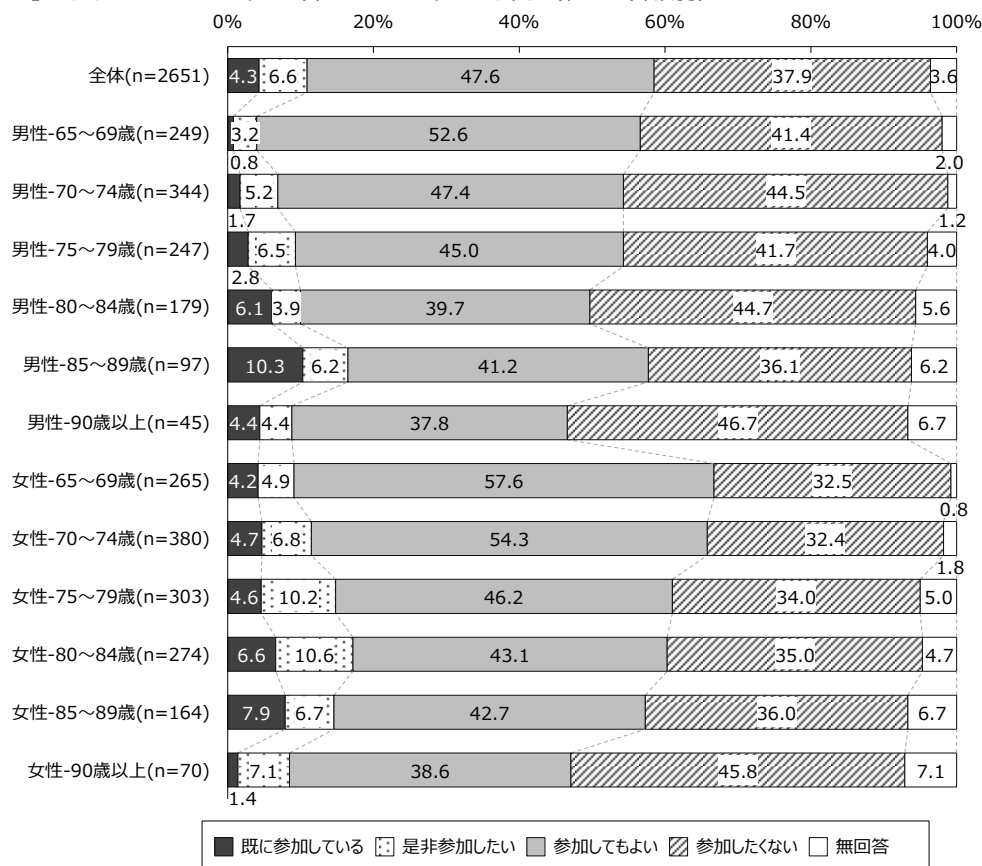
【図表 53】 地域づくりへの参加者としての参加意向〈前回比較〉



■地域づくりへの参加者としての参加意向〈性・年齢別〉

地域づくりへの参加者としての参加意向を性・年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「参加したくない」の割合が高くなる傾向がみられる。

【図表 54】 地域づくりへの参加者としての参加意向〈性・年齢別〉



<地域活動参加者(町会・自治会、ボランティア活動)の割合>

会・グループへの参加頻度のうち、地域活動(①ボランティアグループ及び⑦町会・自治会)の両方に「週4日以上」から「年に数回」までを合わせた“参加している”と回答した人は19.4%となっている。

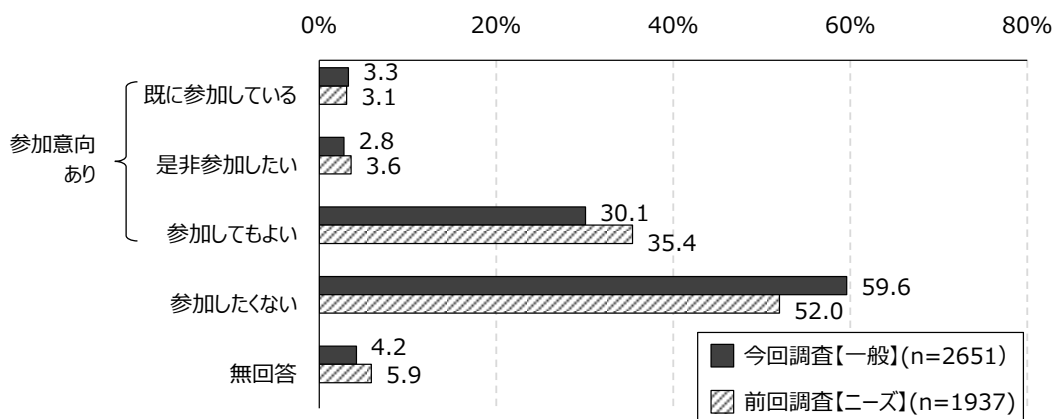
【図表 55】 地域活動参加者(町会・自治会、ボランティア活動)の割合

地域活動	人数/割合
①ボランティアのグループのみ参加	167人
⑦町会・自治会のみ参加	231人
①・⑦両方に参加	115人
計	513人
回答者に占める参加者の割合	19.4%

問36 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。

地域住民の有志による地域づくりへの企画・運営としての参加意向については、「既に参加している」が3.3%、「是非参加したい」が2.8%、「参加してもよい」が30.1%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は36.2%となっている。

【図表 56】 地域づくりへの企画・運営としての参加意向(前回比較)

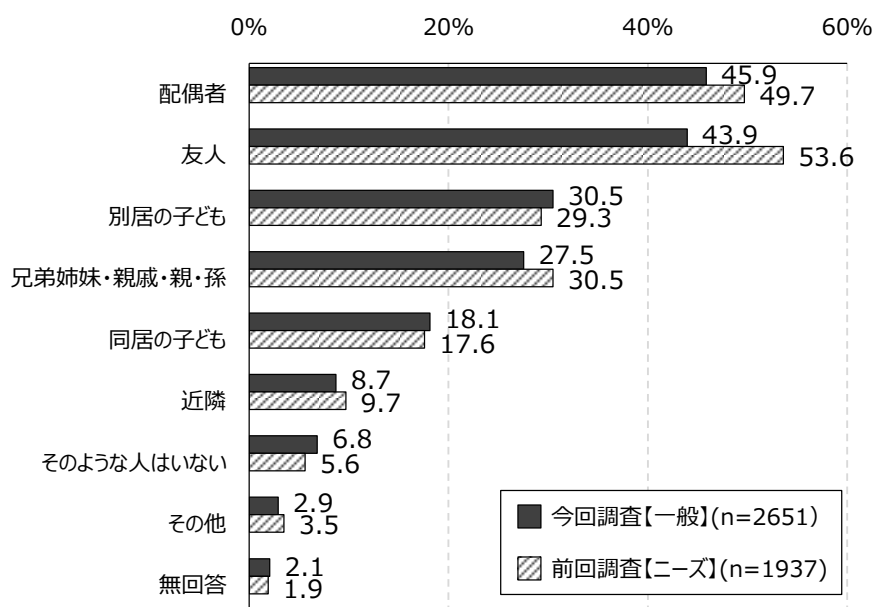


たすけあいについて

問37 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人。(複数回答)

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が45.9%と最も多く、次いで「友人」が43.9%、「別居の子ども」が30.5%となっている。

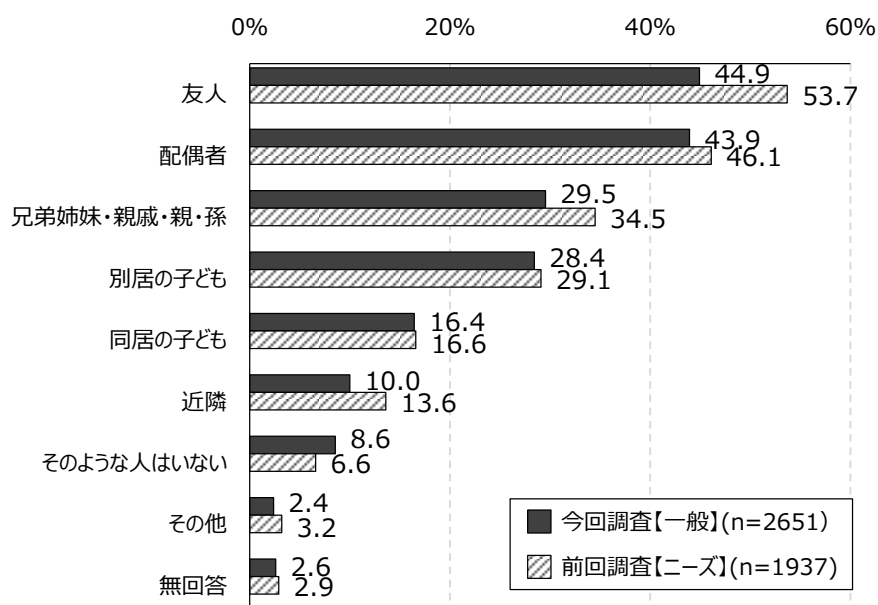
【図表 57】 心配事や愚痴を聞いてくれる人〈前回比較〉



問38 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人。(複数回答)

心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「友人」が44.9%と最も多く、次いで「配偶者」が43.9%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が29.5%となっている。

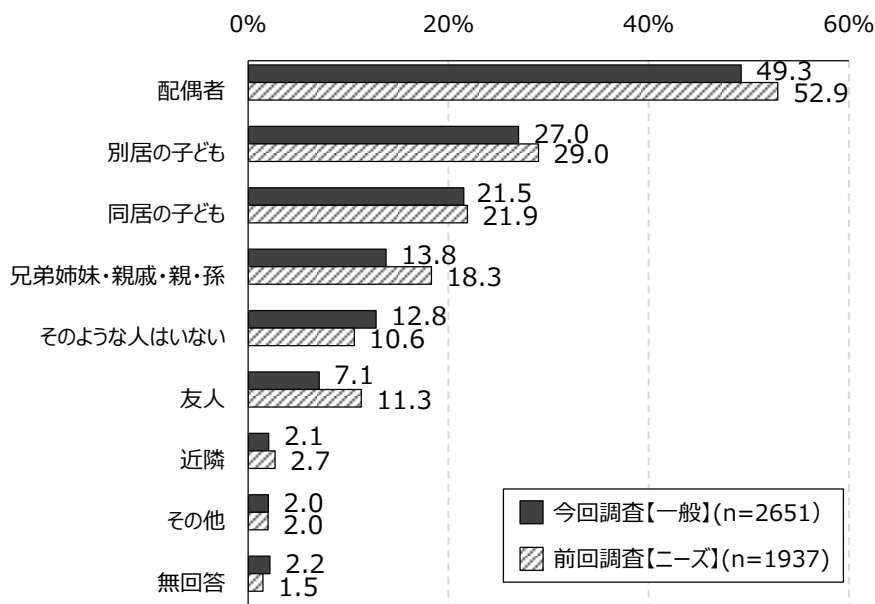
【図表 58】 心配事や愚痴を聞いてあげる人〈前回比較〉



問39 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。
(複数回答)

病気で寝込んだときに看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が49.3%と最も多く、次いで「別居の子ども」が27.0%、「同居の子ども」が21.5%となっている。

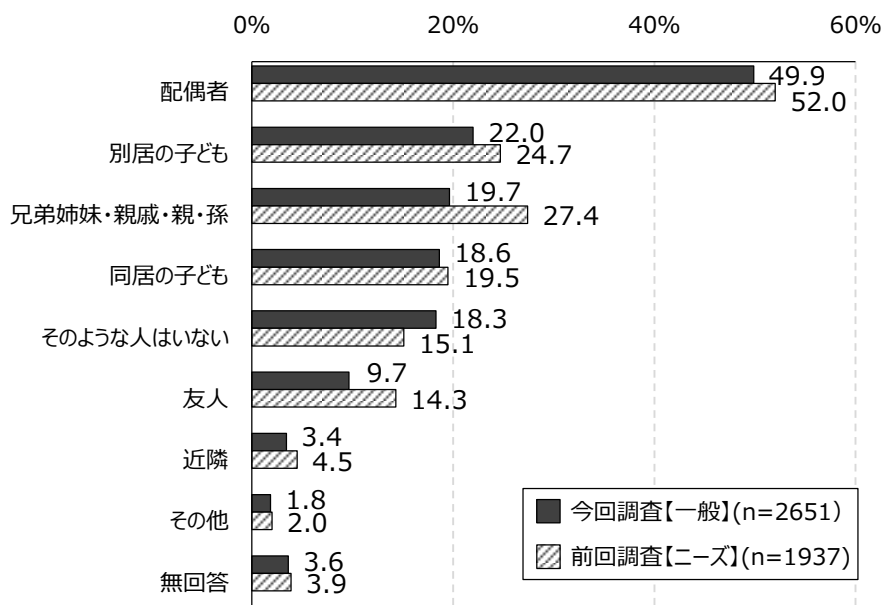
【図表 59】病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人〈前回比較〉



問40 反対に、看病や世話をしてあげる人。(複数回答)

看病や世話をしてあげる人については、「配偶者」が49.9%と最も多く、次いで「別居の子ども」が22.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が19.7%となっている。

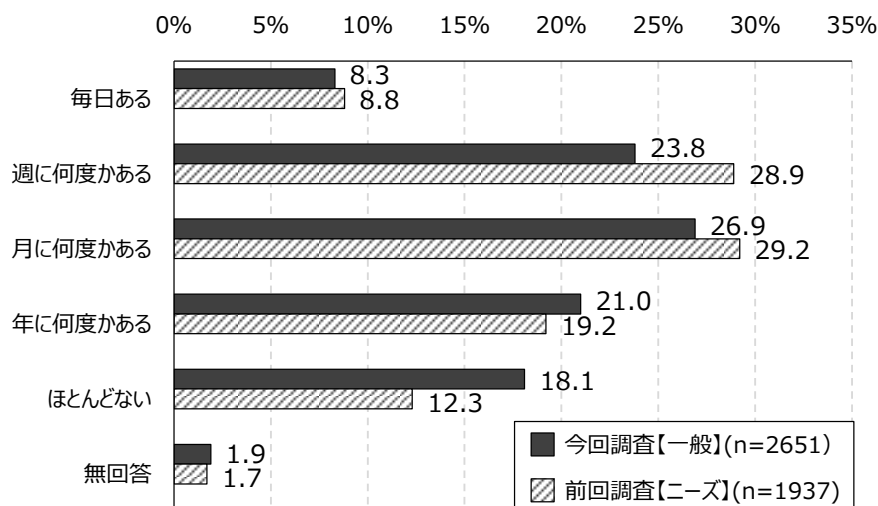
【図表 60】看病や世話をしてあげる人〈前回比較〉



問41 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

友人・知人と会う頻度について、「月に何度かある」が26.9%と最も多く、次いで「週に何度かある」が23.8%、「年に何度かある」が21.0%となっている。

【図表 61】友人・知人と会う頻度〈前回比較〉

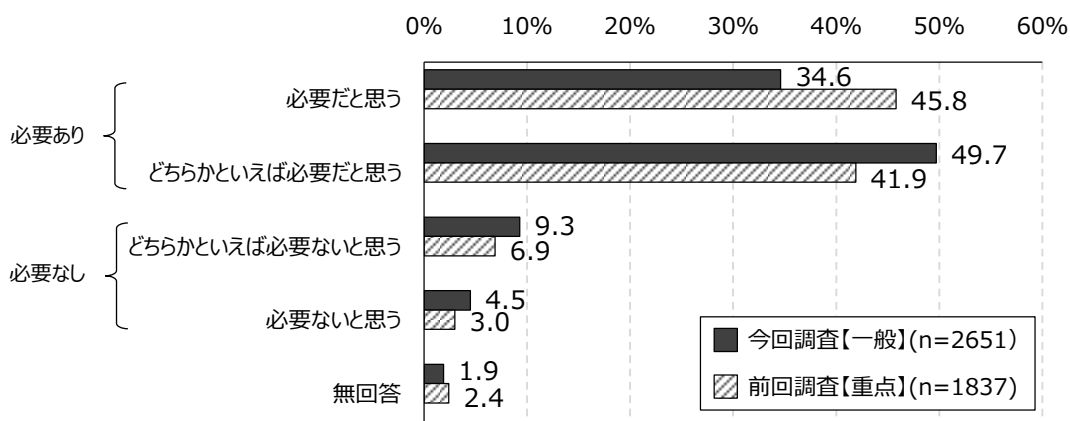


問42 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)についておたずねします。

(1)地域のつながりの必要性

地域のつながりの必要性については、「必要だと思う」(34.6%)と「どちらかといえば必要だと思う」(49.7%)を合わせた“必要あり”は84.3%となっている。一方、「どちらかといえば必要ないと思う」(9.3%)と「必要ないと思う」(4.5%)を合わせた“必要なし”は13.8%となっている。

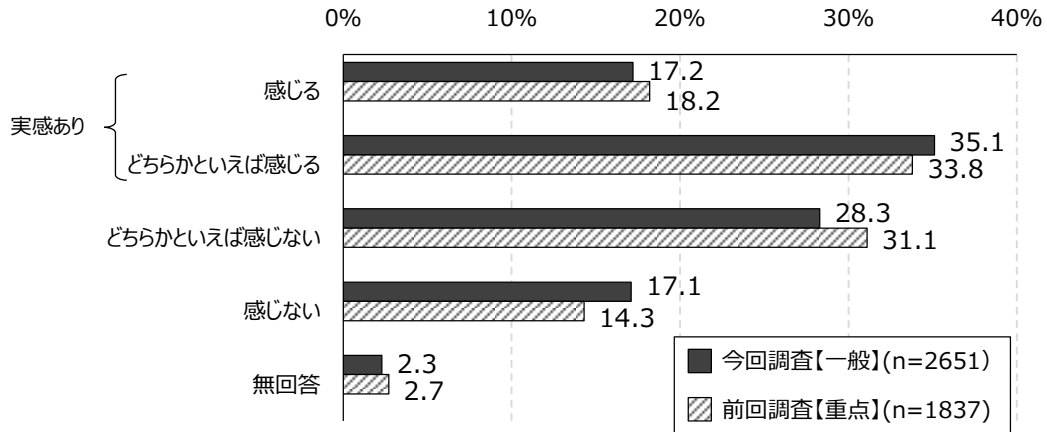
【図表 62】地域のつながりの必要性〈前回比較〉



(2)地域のつながりの実感

地域のつながりの実感については、「感じる」(17.2%)と「どちらかといえば感じる」(35.1%)を合わせた“実感あり”は52.3%となっている。

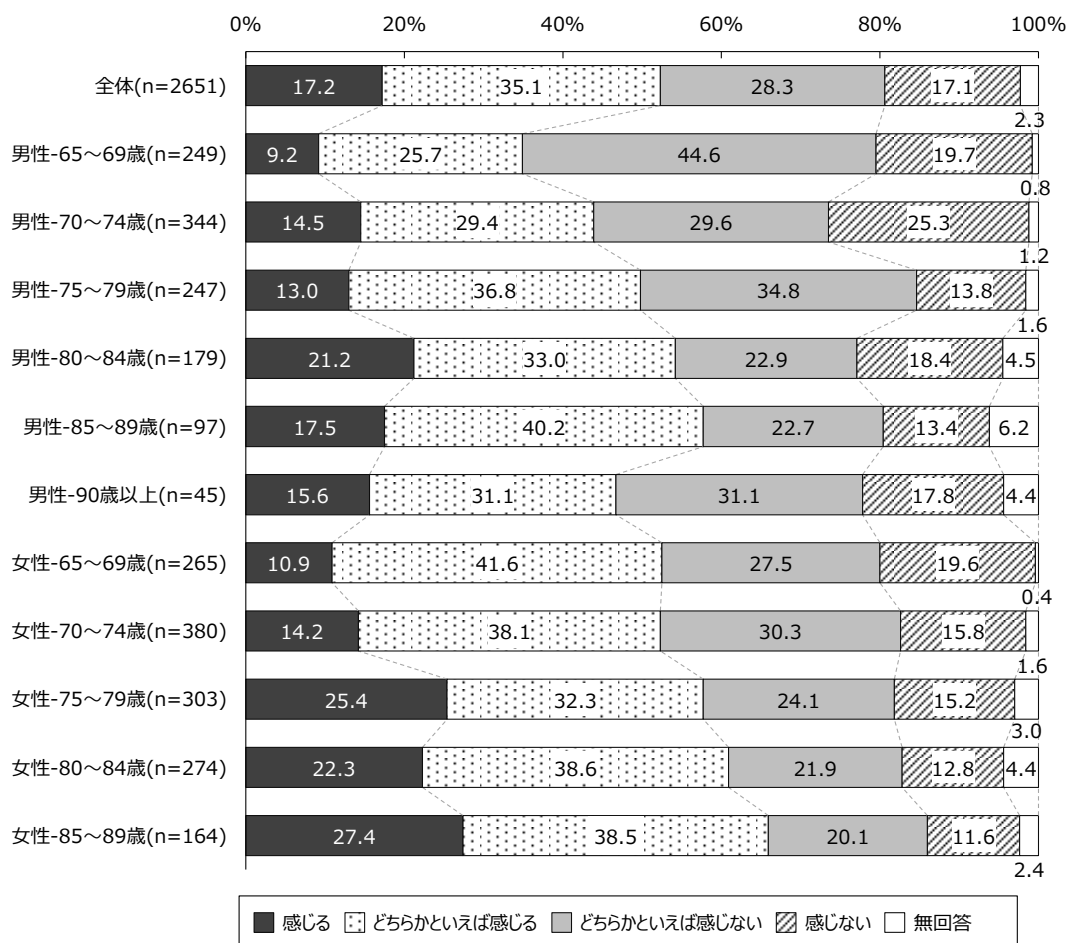
【図表 63】地域のつながりの実感〈前回比較〉



■地域のつながりの実感〈性・年齢別〉

地域のつながりの実感を性・年齢別にみると、“実感あり”は男女とも年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

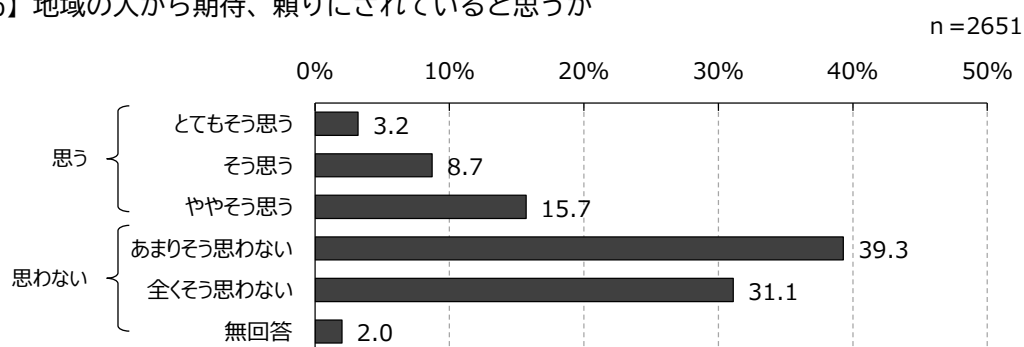
【図表 64】地域のつながりの実感〈性・年齢別〉



問43 あなたは、お住まいの地域の人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思いますか。

地域住人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思うかについて、「あまりそう思わない」(39.3%)と「全くそう思わない」(31.1%)を合わせた“思わない”が70.4%となっている。一方、「とてもそう思う」(3.2%)、「そう思う」(8.7%)、「ややそう思う」(15.7%)を合わせた“思う”は27.6%となっている。

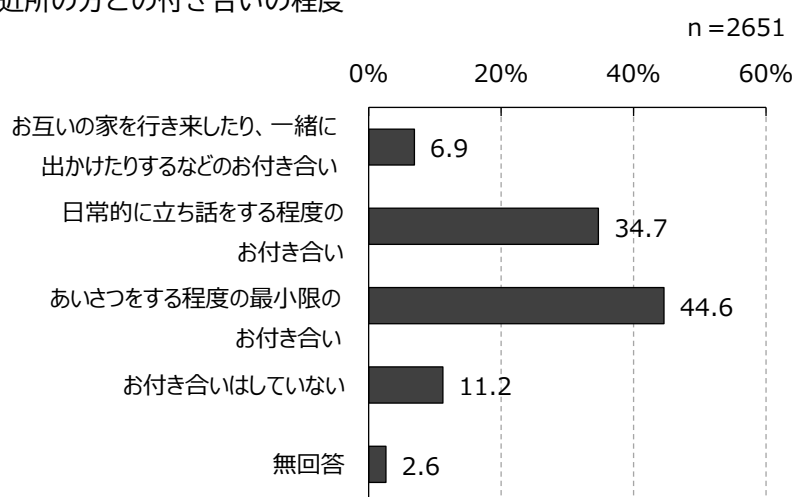
【図表 65】 地域の人から期待、頼りにされていると思うか



問44 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。

近所の方との付き合いの程度については、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」が44.6%と最も多く、次いで「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」が34.7%となっている。

【図表 66】 近所の方との付き合いの程度

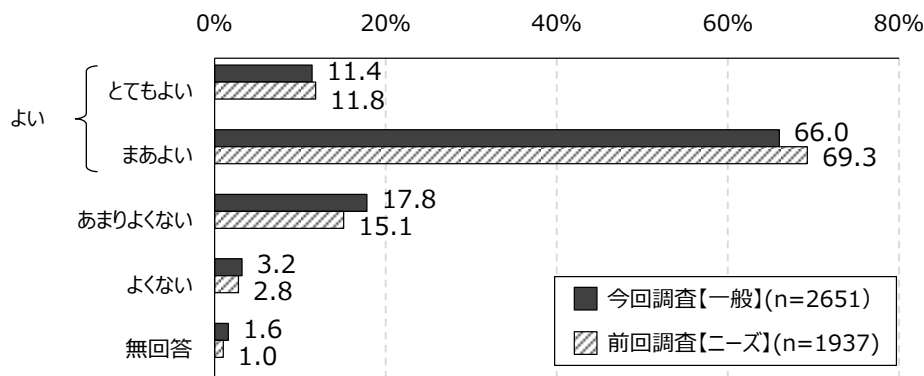


健康状態について

問45 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

現在の健康状態については、「とてもよい」(11.4%)と「まあよい」(66.0%)を合わせた“よい”は77.4%となっている。

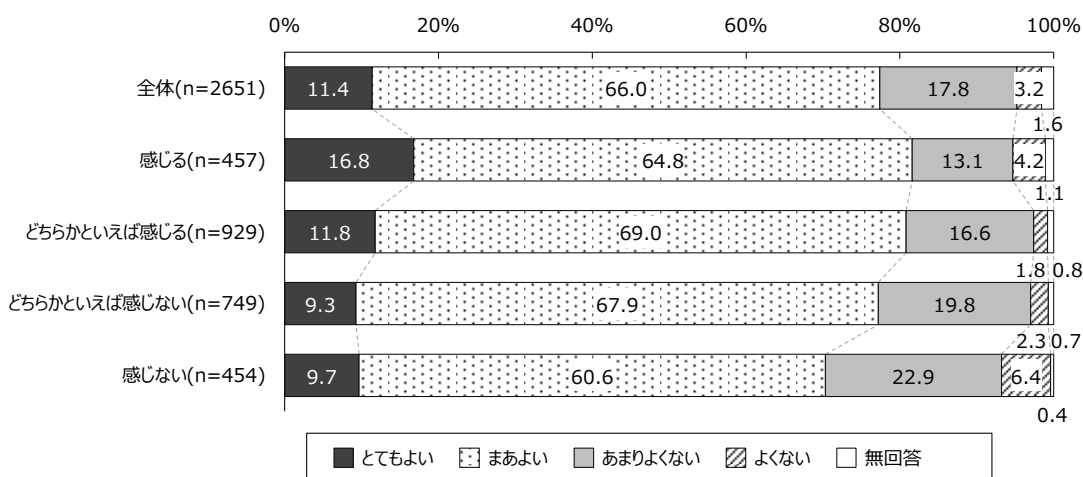
【図表 67】現在の健康状態〈前回比較〉



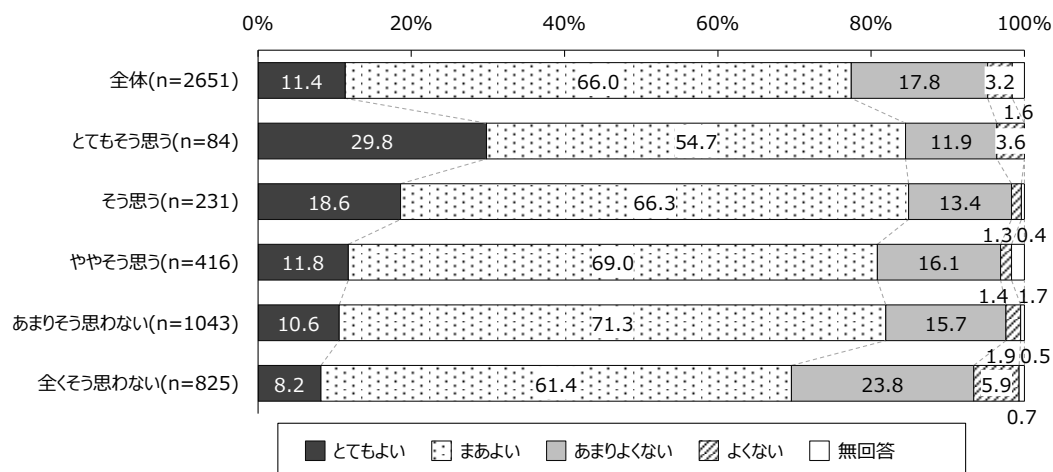
■現在の健康状態〈地域のつながり実感／地域からの役割期待別〉

現在の健康状態を地域のつながり実感別にみると、地域のつながりを感じるほど健康状態が“よい”と回答する割合が高くなっている。また、地域からの役割期待をされていると思うほど健康状態が“よい”と回答する割合が高い傾向がみられる。

【図表 68】現在の健康状態〈問 42(2)地域のつながり実感別〉



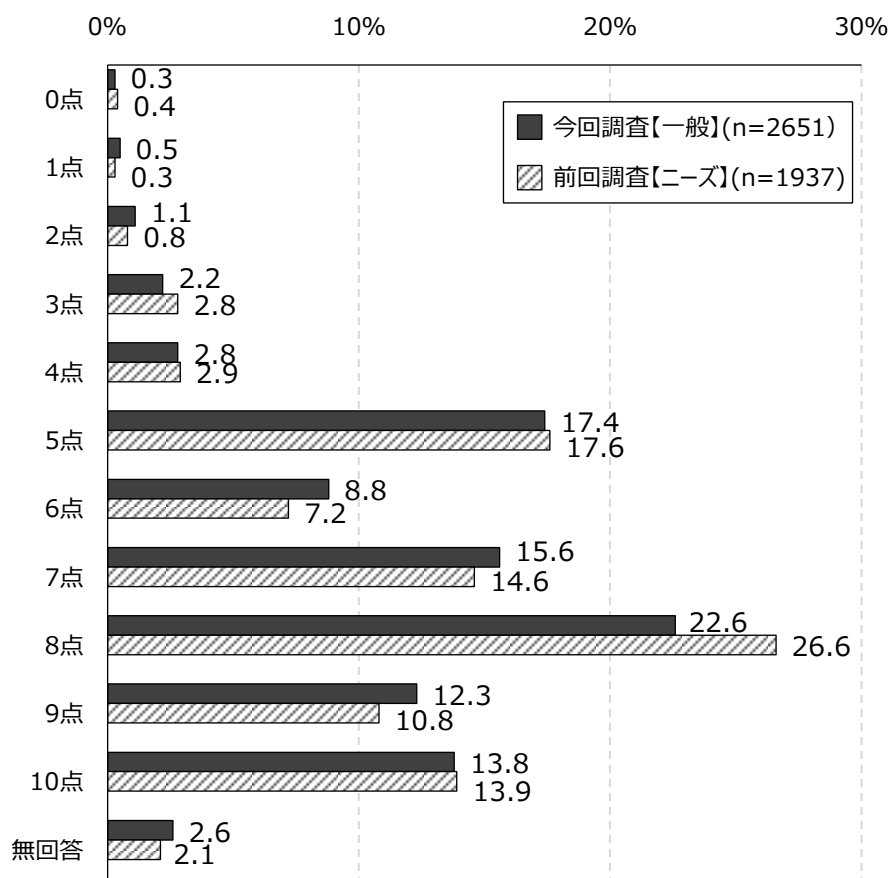
【図表 69】現在の健康状態〈問 43 地域からの役割期待別〉



問46 あなたは、現在どの程度幸せですか。

現在の幸福度については、「8点」が22.6%と最も多く、次いで「5点」が17.4%、「7点」が15.6%となっている。

【図表 70】現在の幸福度〈前回比較〉



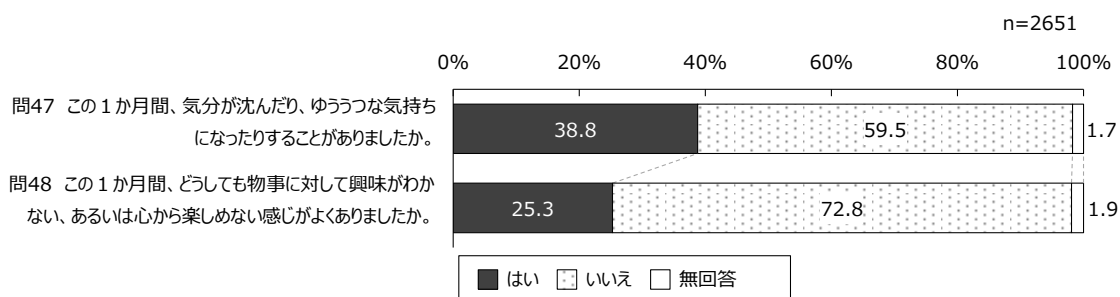
問47 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

問48 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

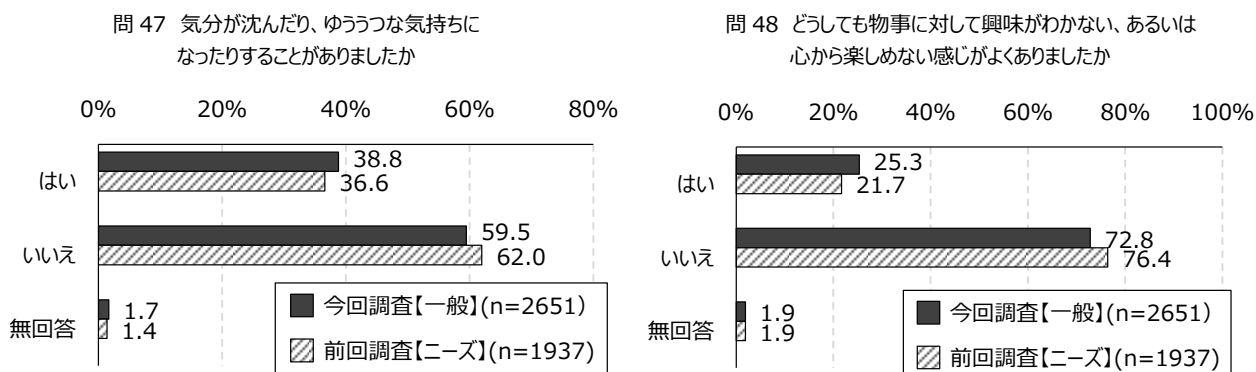
この1か月間の気持ちについては、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかでは、「はい」が38.8%、「いいえ」が59.5%となっている。

どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかでは、「はい」が25.3%、「いいえ」が72.8%となっている。

【図表 71】この1か月間の気持ちについて



【図表 72】この1か月間の気持ちについて〈前回比較〉



◆各種リスクの状況

■うつ傾向の高齢者割合

問 47 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか（「はい」）

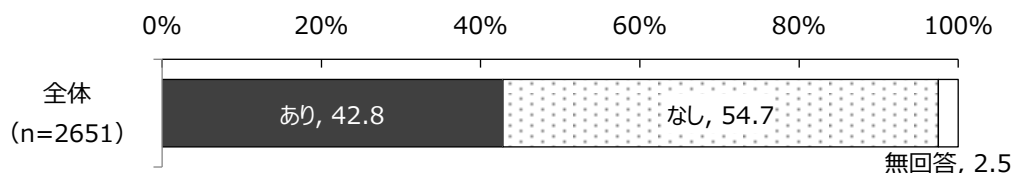
問 48 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（「はい」）

※うつ傾向については、2つの設問でいずれか1つでも「はい」が回答された場合、「うつ傾向あり」と判定。

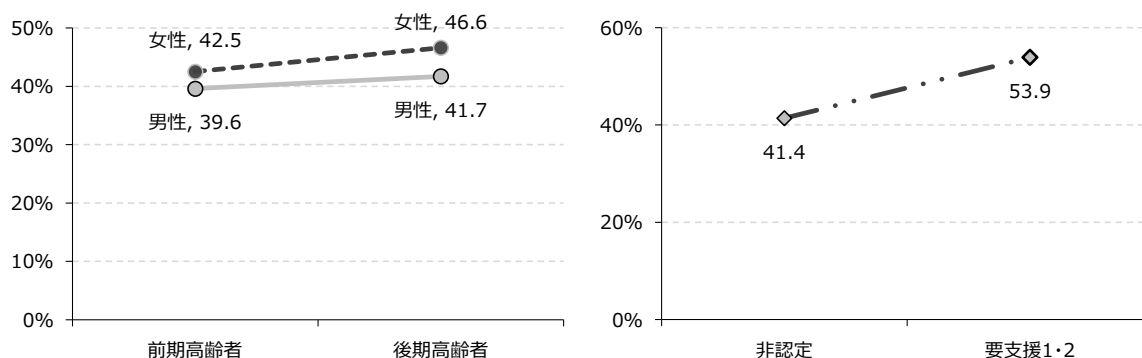
うつ傾向の高齢者割合の全体平均は42.8%で、性・年齢別で見ると、前期高齢者では性別による大きな差異はみられないが、後期高齢者では女性が男性よりも4.9ポイント高い。前期高齢者と後期高齢者間の増加の度合いに性別で大きな差異はみられない。

認定状況別で見ると、非認定で41.4%、要支援1・2で53.9%となっている。

【図表 73】うつ傾向の高齢者割合



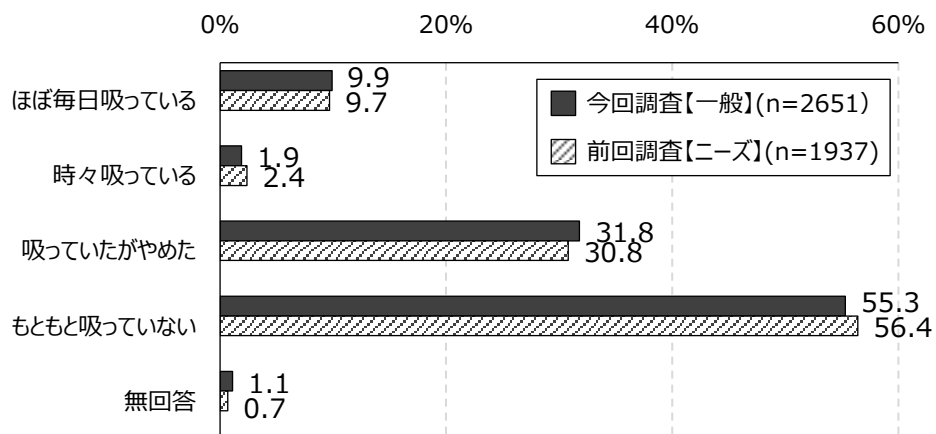
【図表 74】うつ傾向の高齢者割合〈性・年齢別／認定状況別〉



問49 タバコは吸っていますか。

喫煙については、「もともと吸っていない」が55.3%と最も多く、次いで「吸っていたがやめた」が31.8%、「ほぼ毎日吸っている」が9.9%となっている。

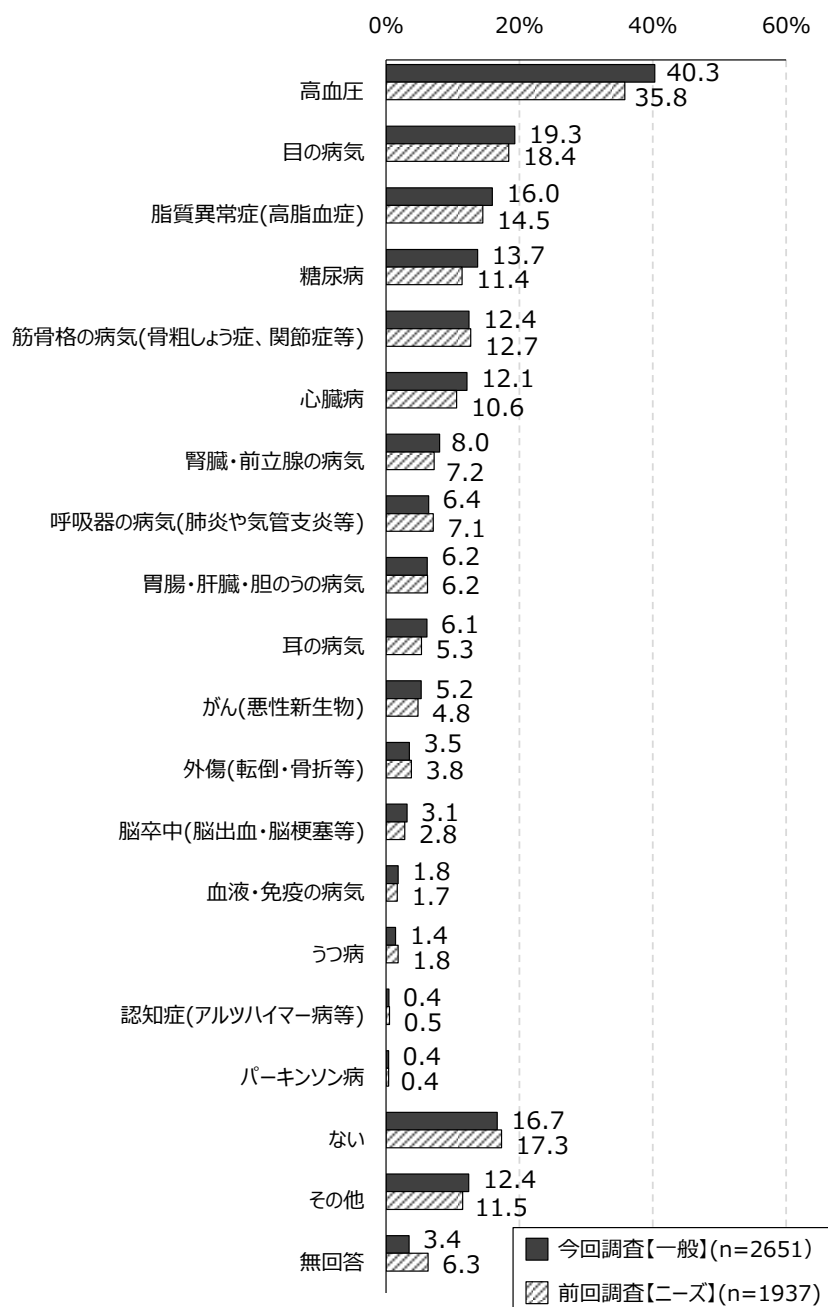
【図表 75】喫煙頻度〈前回比較〉



問50 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数回答)

現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が40.3%と最も多く、次いで「目の病気」が19.3%、「脂質異常症（高脂血症）」が16.0%となっている。一方、「ない」は16.7%となっている。

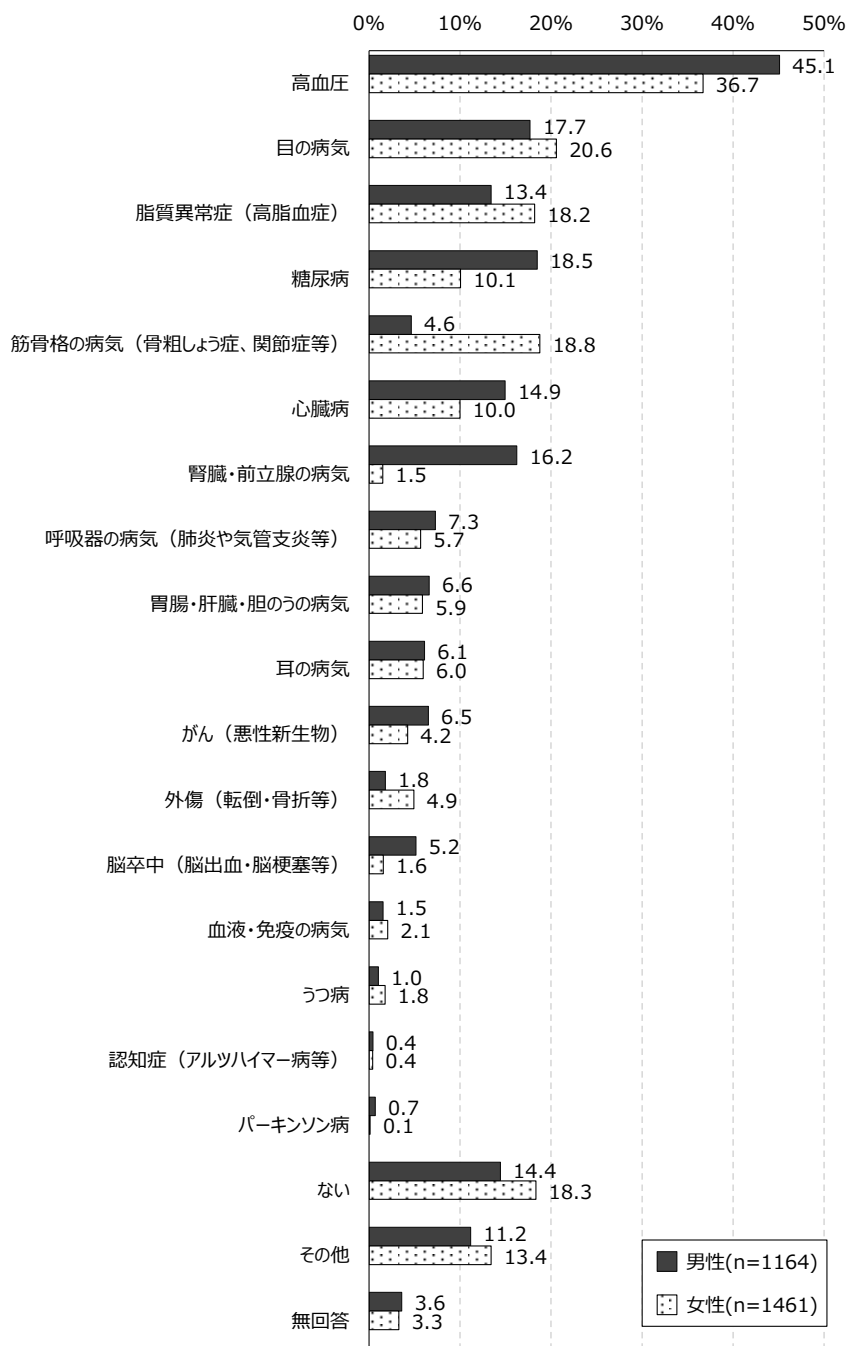
【図表 76】現在治療中、または後遺症のある病気〈前回比較〉



■現在治療中、または後遺症のある病気〈性別〉

現在治療中、または後遺症のある病気を性別にみると、「高血圧」、「糖尿病」、「腎臓・前立腺の病気」は男性の方が女性より割合が高く、「脂質異常症（高脂血症）」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」は女性の方が男性より割合が高くなっている。

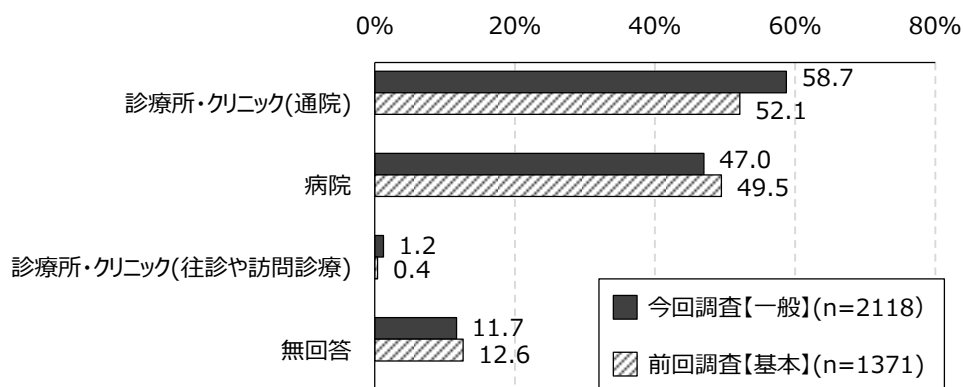
【図表 77】現在治療中、または後遺症のある病気 〈性別〉



問50-1 受診している医療機関は、次のうちどれですか。(複数回答)

現在治療中、または後遺症のある病気について『ある』と回答した人に、受診している医療機関を聞いたところ、「診療所・クリニック（通院）」が58.7%と最も多く、次いで「病院」が47.0%、「診療所・クリニック（往診や訪問診療）」が1.2%となっている。

【図表 78】 受診している医療機関〈前回比較〉

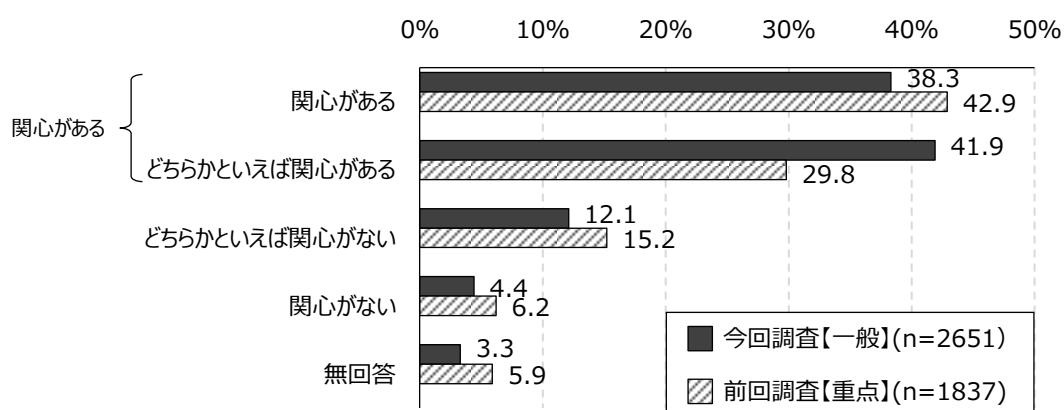


介護予防について

問51 あなたは、「介護予防」について関心がありますか。

介護予防への関心の有無について、「関心がある」(38.3%)と「どちらかといえば関心がある」(41.9%)を合わせた“関心がある”は80.2%となっている。

【図表 79】 介護予防への関心の有無〈前回比較〉

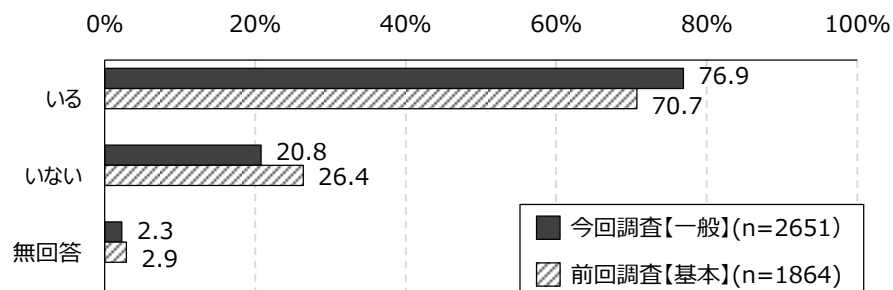


かかりつけの医療機関について

問52 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。

かかりつけ医の有無については、「いる」が76.9%、「いない」が20.8%となっている。

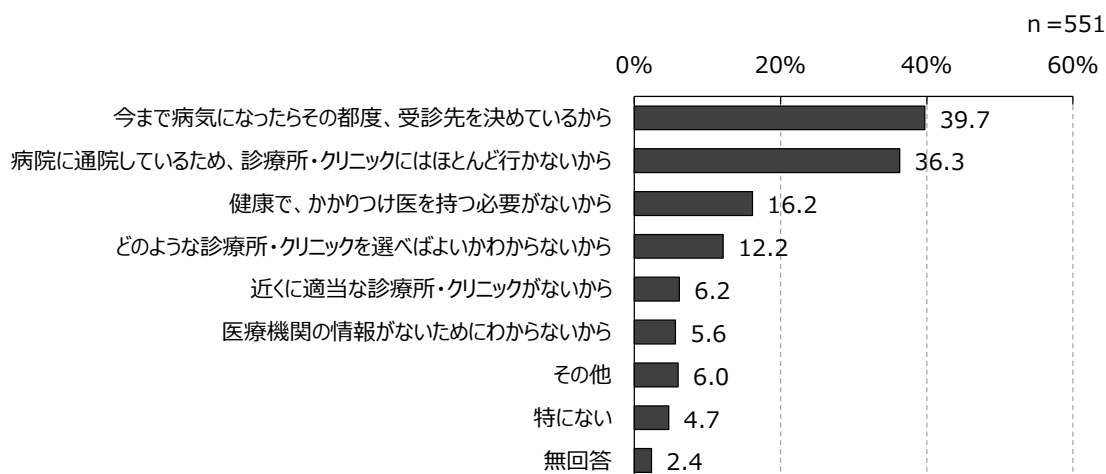
【図表 80】かかりつけ医の有無〈前回比較〉



問52-1 かかりつけ医がいない理由は、次のうちどれですか。(複数回答)

かかりつけ医が「いない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」が39.7%と最も多く、次いで「病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから」が36.3%、「健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから」が16.2%となっている。

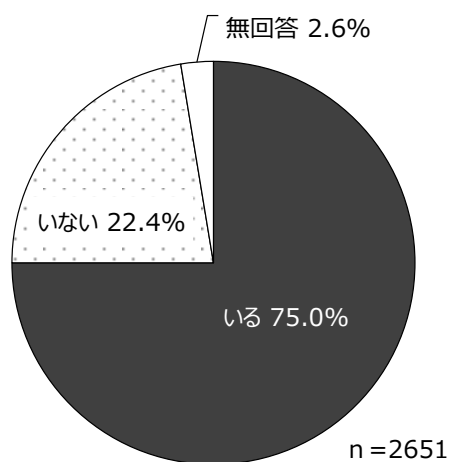
【図表 81】かかりつけ医がいない理由



問53 あなたは、治療や予防のために定期的に受診している「かかりつけ歯科医」がいますか。

かかりつけ歯科医の有無については、「いる」が75.0%、「いない」が22.4%となっている。

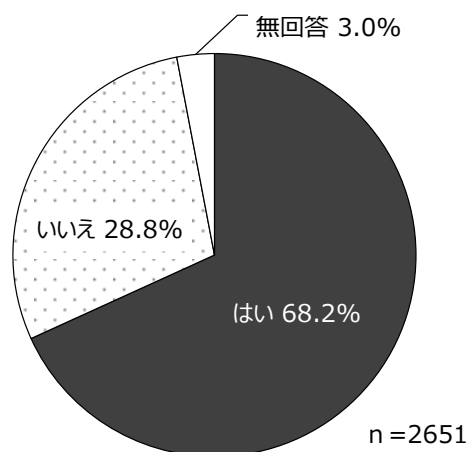
【図表 82】かかりつけ歯科医の有無



問54 あなたは、病院・診療所から処方された薬について相談できる「かかりつけ薬局」がありますか。

かかりつけ薬局の有無については、「はい」が68.2%、「いいえ」が28.8%となっている。

【図表 83】かかりつけ薬局の有無

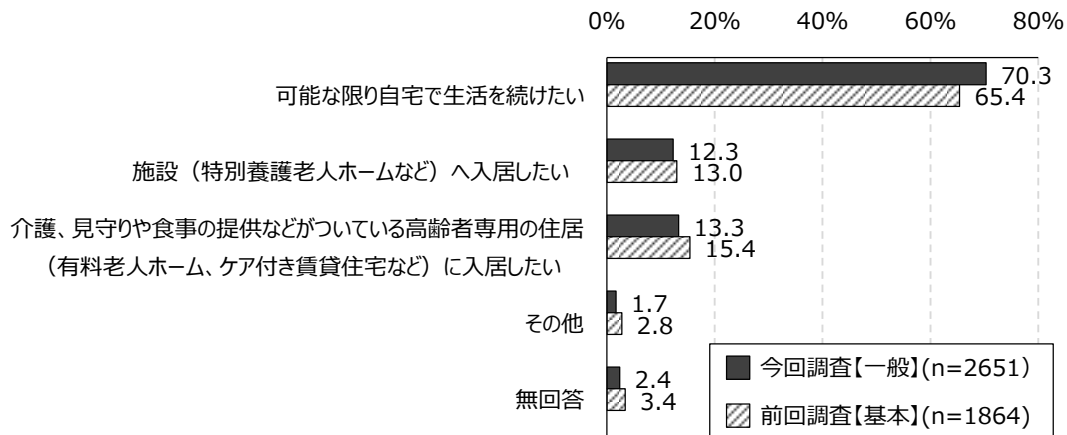


在宅療養等について

問55 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。

介護が必要になった場合に生活を続けたい場所については、「可能な限り自宅で生活を続けたい」が70.3%と最も多く、次いで「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居（有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など）に入居したい」が13.3%、「施設（特別養護老人ホームなど）へ入居したい」が12.3%となっている。

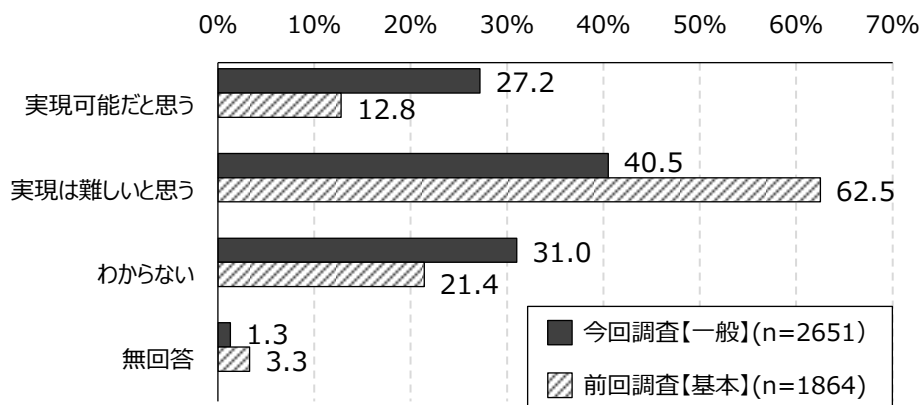
【図表 84】 介護が必要になった場合の生活を続けたい場所（前回比較）



問56 ご自宅での療養は実現可能だと思いますか。

自宅での療養は実現可能と思うかについては、「実現は難しいと思う」が40.5%と最も多く、次いで「わからない」が31.0%、「実現可能だと思う」が27.2%となっている。

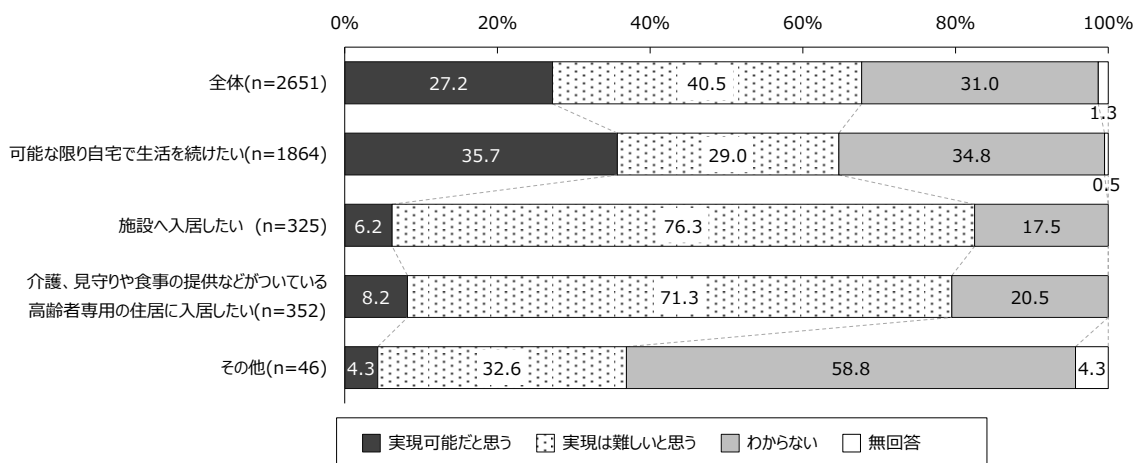
【図表 85】 在宅療養の可能性（前回比較）



■在宅療養の可能性<介護が必要になった場合の生活場所別>

在宅療養の可能性を希望の生活場所別にみると、「可能な限り自宅で生活を続けたい」と回答した人のうち、「実現可能だと思う」は35.7%となっている。

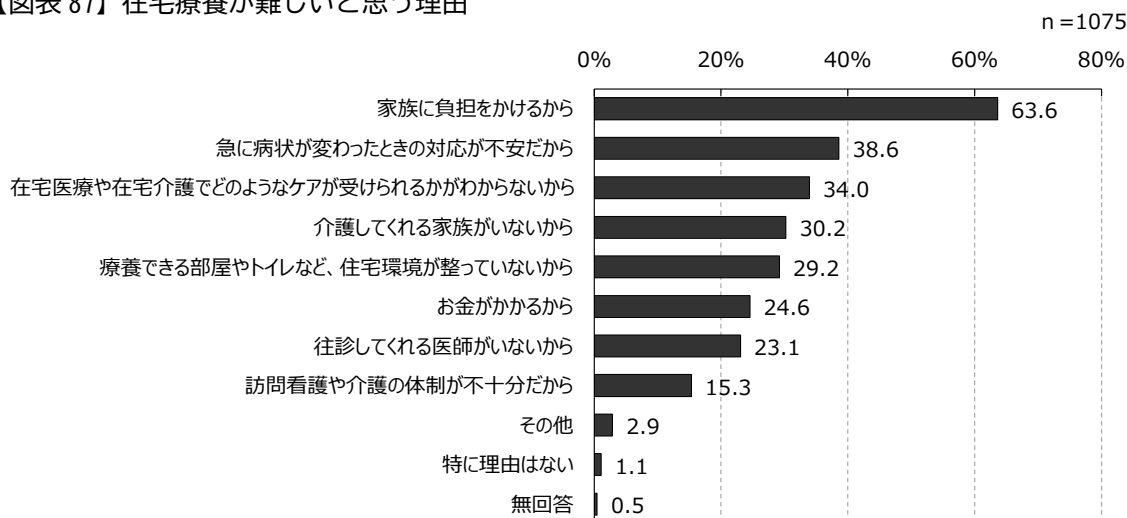
【図表 86】在宅療養の可能性 <問 55 介護が必要になった場合の生活場所別>



問56-1 実現は難しいと思う理由は何ですか。(複数回答)

自宅での療養について「実現は難しいと思う」と回答した人にその理由を聞いたところ、「家族に負担をかけるから」が63.6%と最も多く、次いで「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が38.6%、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアが受けられるかがわからないから」が34.0%となっている。

【図表 87】在宅療養が難しいと思う理由

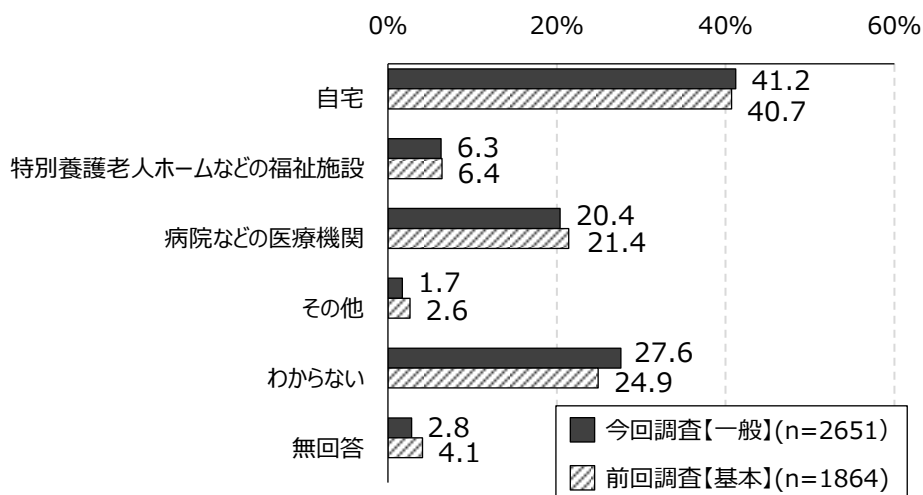


ACP（人生会議）について

問57 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。

自身の最期を迎えたい場所については、「自宅」が41.2%と最も多く、次いで「わからない」が27.6%、「病院などの医療機関」が20.4%となっている。

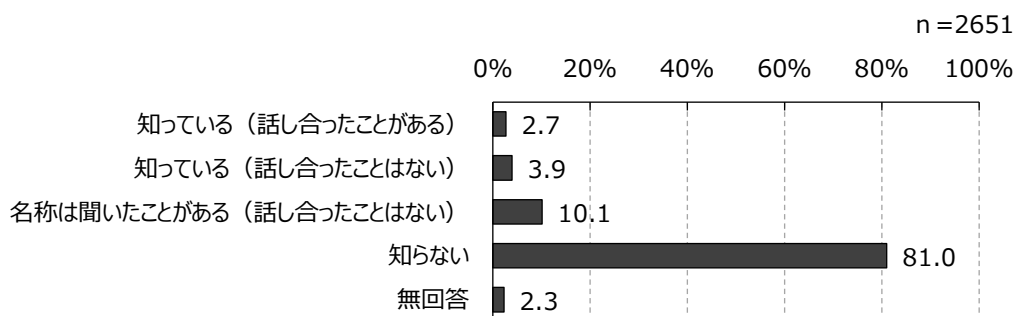
【図表 88】 最期を迎えたい場所（前回比較）



問58 あなたは、ACP(人生会議)について知っていますか。

ACP（人生会議）についての認知度は、「知らない」が81.0%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある（話し合ったことはない）」が10.1%、「知っている（話し合ったことはない）」が3.9%となっている。

【図表 89】 ACP（人生会議）の認知度

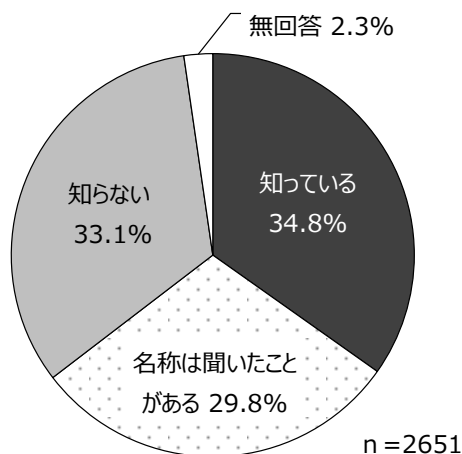


緩和ケアについて

問59 あなたは、「緩和ケア」について、知っていますか。

緩和ケアについての認知度は、「知っている」が34.8%と最も多く、次いで「知らない」が33.1%、「名称は聞いたことがある」が29.8%となっている。

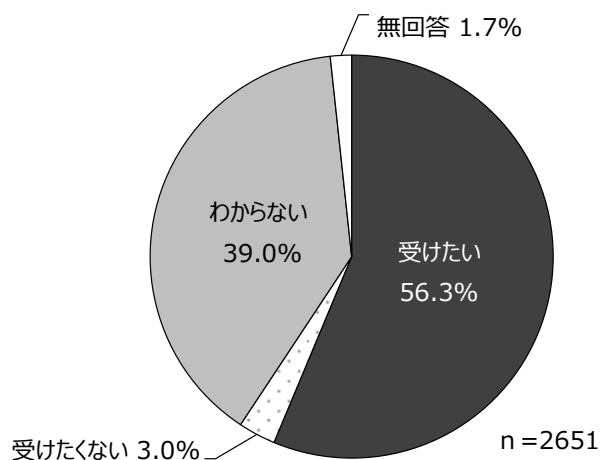
【図表 90】 緩和ケアの認知度



問60 あなたは、緩和ケアが必要になった時、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。

緩和ケアが必要になった時、緩和ケアを受けたいと思うかについて、「受けたい」が56.3%と最も多く、次いで「わからない」が39.0%、「受けたくない」が3.0%となっている。

【図表 91】 緩和ケアを受けたいと思うか

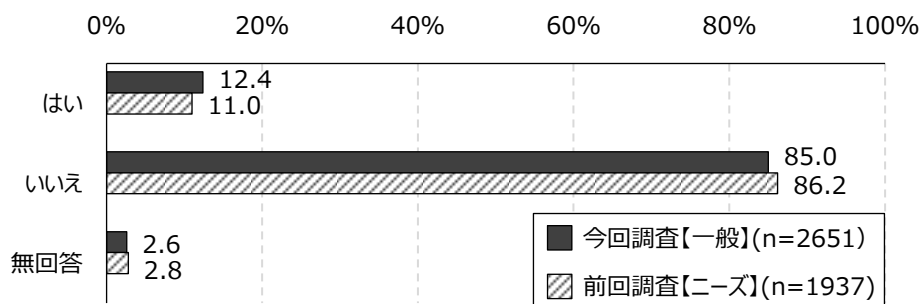


認知症について

問61 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。

自身に認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいるかについて、「はい」が12.4%、「いいえ」が85.0%となっている。

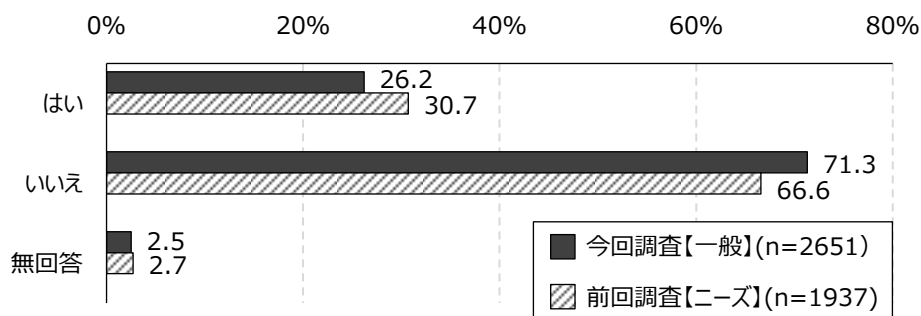
【図表 92】 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいるか 〈前回比較〉



問62 認知症に関する相談窓口を知っていますか。

認知症に関する相談窓口の認知度については、「はい」が26.2%、「いいえ」が71.3%となっている。

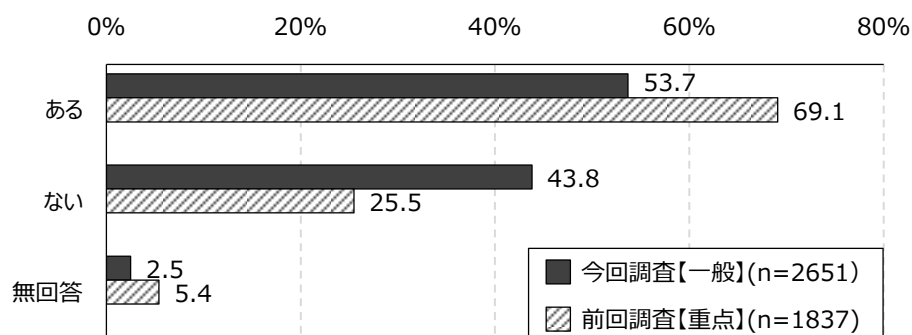
【図表 93】 認知症に関する相談窓口の認知度 〈前回比較〉



問63 あなたは今までに、自身や家族等が認知症になったときのことについて、考えたことがありますか。

今までに自身や家族等が認知症になったときのことを考えたことがあるかについて、「ある」が53.7%、「ない」が43.8%となっている。

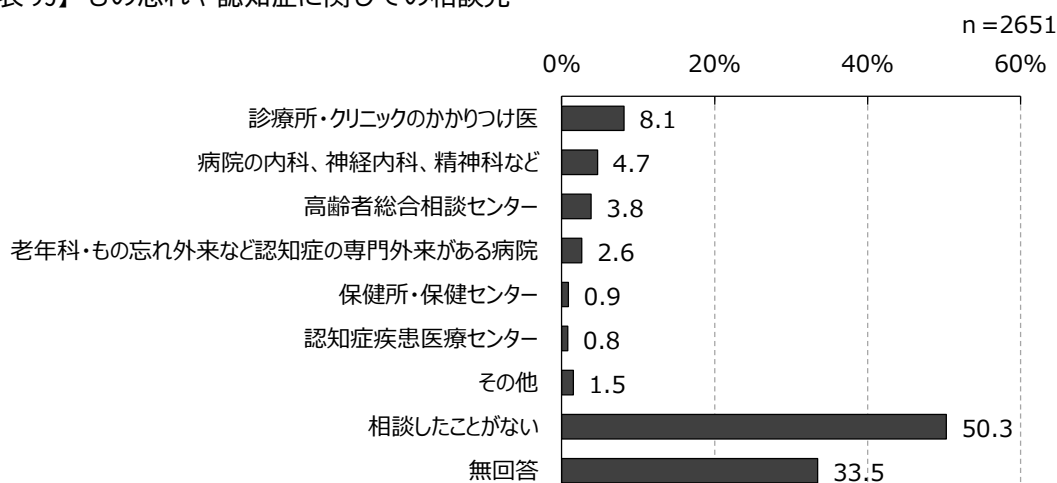
【図表 94】自身や家族が認知症になったときのことについて、考えたことの有無〈前回比較〉



問64 もの忘れや認知症に関して相談したことがある方は、どちらに相談しましたか。
(複数回答)

もの忘れや認知症に関しての相談先について、「相談したことがない」が50.3%と最も多く、次いで「診療所・クリニックのかかりつけ医」が8.1%、「病院の内科、神経内科、精神科など」が4.7%となっている。

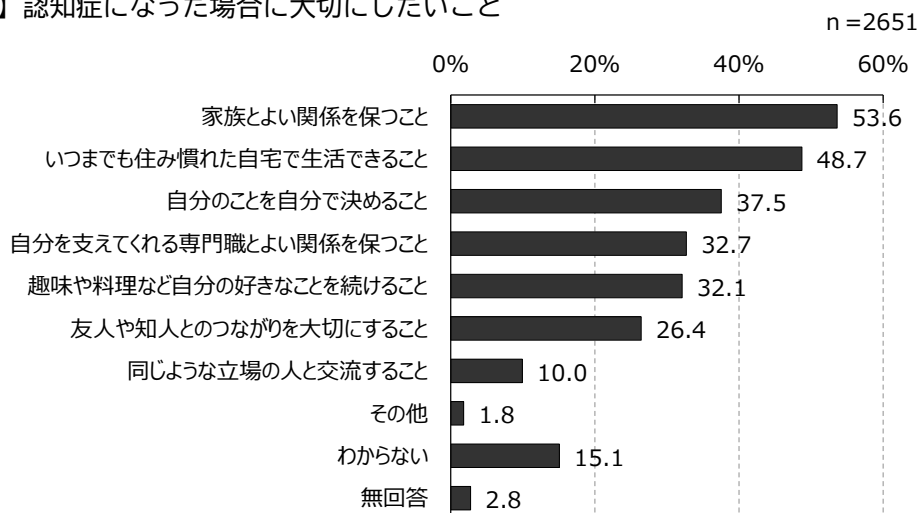
【図表 95】もの忘れや認知症に関しての相談先



問65 もしあなたが認知症になった場合、大切にしたいことは何ですか。(複数回答)

認知症になった場合に大切にしたいことについては、「家族とよい関係を保つこと」が53.6%と最も多く、次いで「いつまでも住み慣れた自宅で生活できること」が48.7%、「自分のことを自分で決めること」が37.5%となっている。

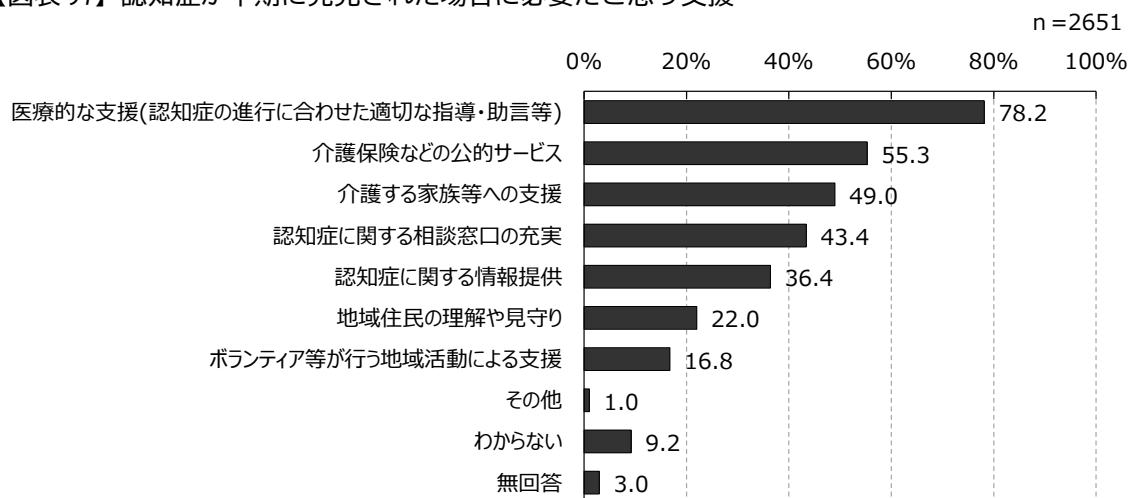
【図表 96】 認知症になった場合に大切にしたいこと



問66 認知症が早期に発見された場合、進行を遅らせるなどの対応策があることがわかってきています。早期に発見された場合、どのような支援が必要だと思いますか。(複数回答)

認知症が早期に発見された場合に必要だと思う支援については、「医療的な支援（認知症の進行に合わせた適切な指導・助言等）」が78.2%と最も多く、次いで「介護保険などの公的サービス」が55.3%、「介護する家族等への支援」が49.0%となっている。

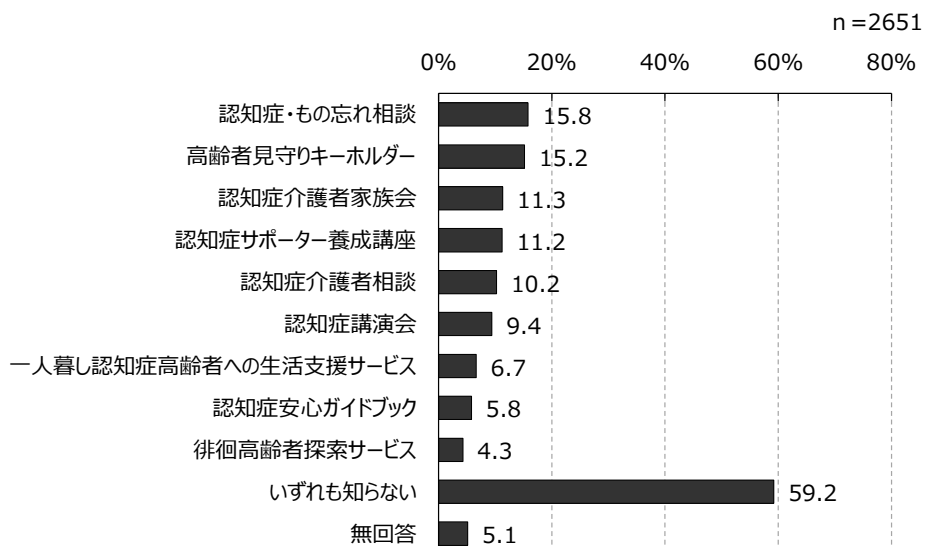
【図表 97】 認知症が早期に発見された場合に必要だと思う支援



問67 以下の認知症に関する事業やサービスを知っていますか。(複数回答)

認知症に関する事業やサービスの認知度については、「いずれも知らない」が59.2%と最も多く、次いで「認知症・もの忘れ相談」が15.8%、「高齢者見守りキーホルダー」が15.2%となっている。

【図表 98】 認知症に関する事業やサービスの認知度

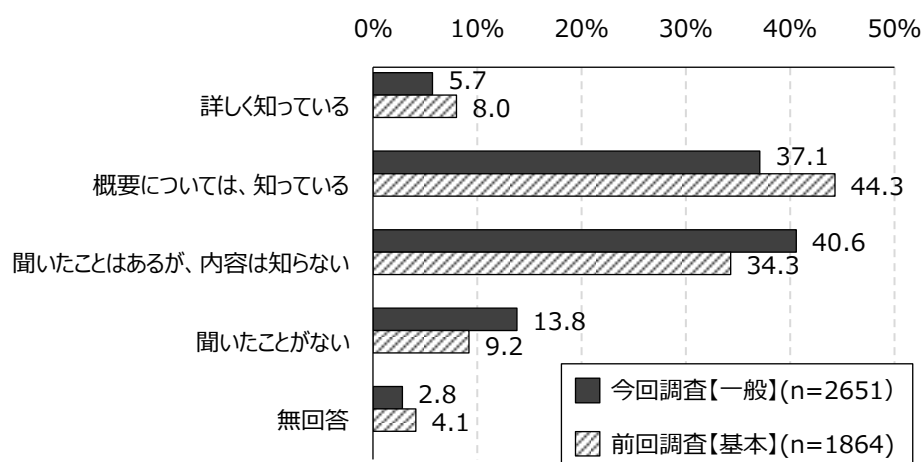


権利擁護について

問68 あなたは、成年後見制度を知っていますか。

成年後見制度の認知度については、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が40.6%と最も多く、次いで「概要については、知っている」が37.1%、「聞いたことがない」が13.8%となっている。

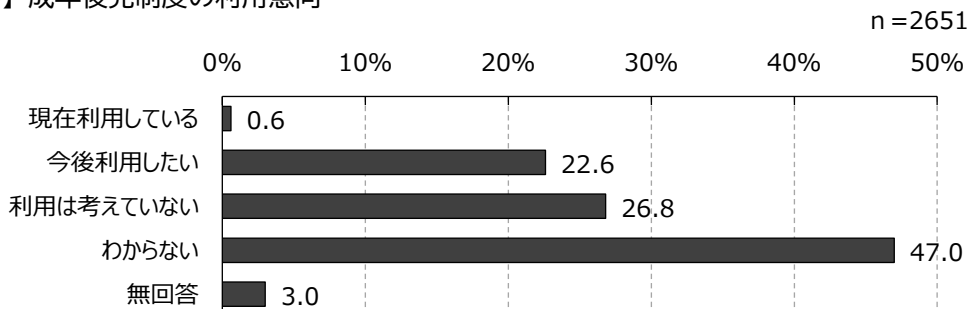
【図表 99】 成年後見制度の認知度〈前回比較〉



問69 あなたは、あなた自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。

自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったときの成年後見制度の利用意向について、「わからない」が47.0%と最も多く、次いで「利用は考えていない」が26.8%、「今後利用したい」が22.6%となっている。

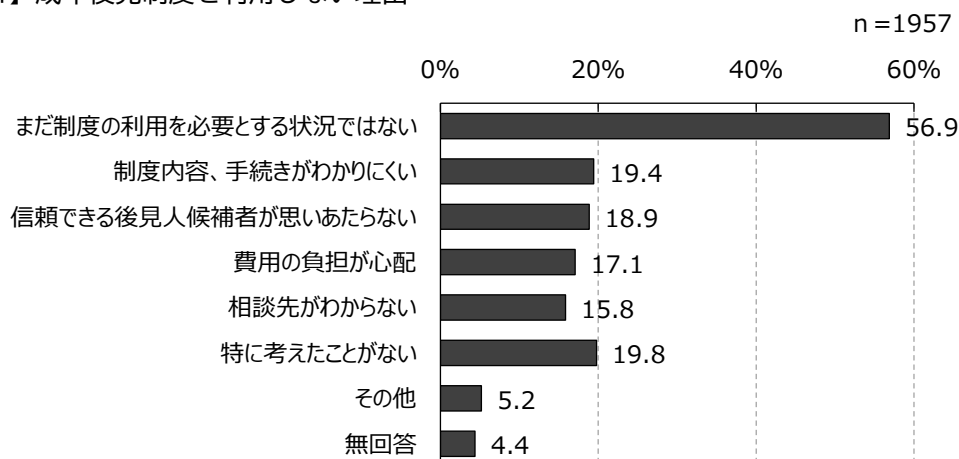
【図表 100】 成年後見制度の利用意向



問69-1 成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。
(複数回答)

成年後見制度の利用意向で「利用は考えていない」、「わからない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」が56.9%と最も多く、次いで「特に考えたことがない」が19.8%、「制度内容、手続きがわかりにくい」が19.4%となっている。

【図表 101】 成年後見制度を利用しない理由

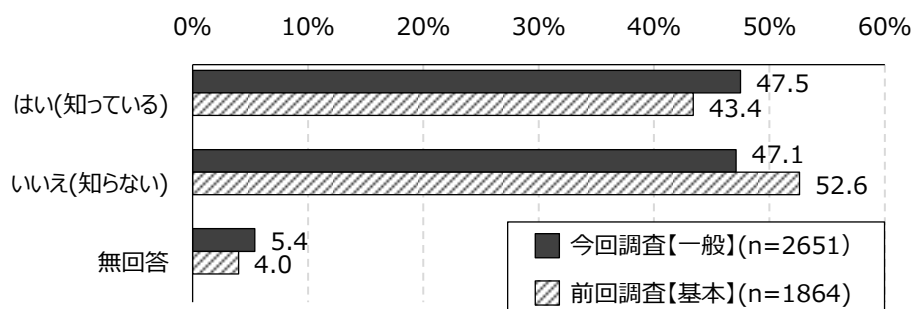


健康・福祉サービスの情報や相談窓口について

問70 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称を知っていますか。

高齢者総合相談センターの名称の認知度については、「はい」が47.5%、「いいえ」が47.1%となっている。

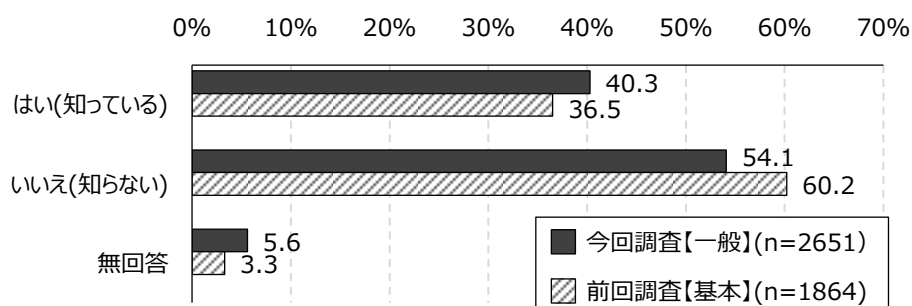
【図表 102】 高齢者総合相談センターの名称の認知度〈前回比較〉



問71 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。

機能の認知度については、「はい」が40.3%、「いいえ」が54.1%となっている。

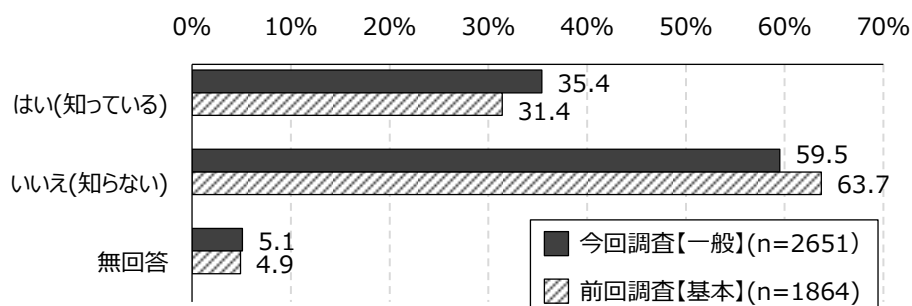
【図表 103】 高齢者総合相談センターの機能の認知度〈前回比較〉



問72 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。

所在地の認知度については、「はい」が35.4%、「いいえ」が59.5%となっている。

【図表 104】 高齢者総合相談センターの所在地の認知度〈前回比較〉

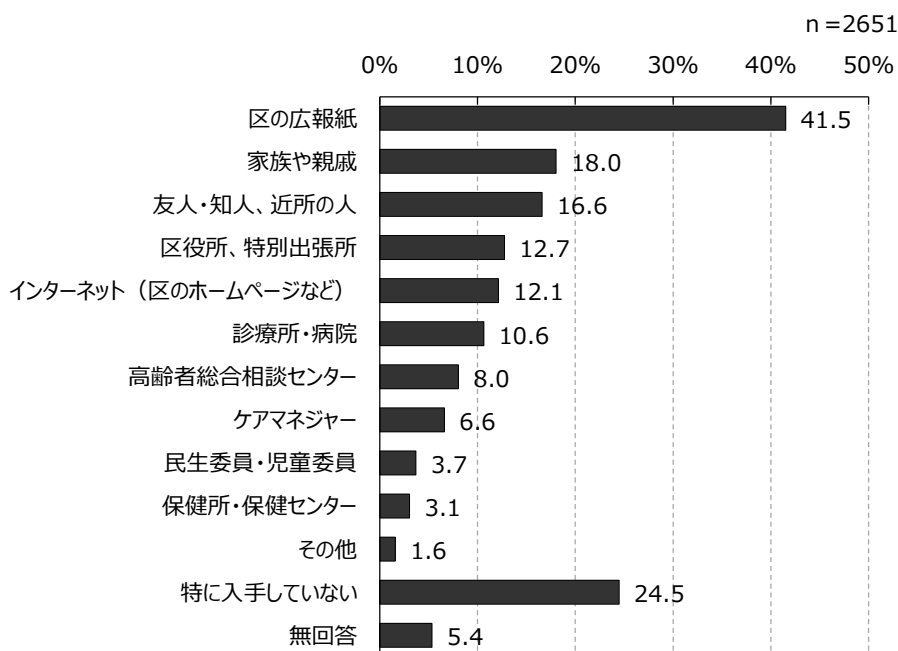


問73 健康や福祉サービスに関する情報についてうかがいます。

(1)あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。(複数回答)

健康や福祉サービスに関する情報の入手手段について、「区の広報紙」が41.5%と最も多く、次いで「家族や親戚」が18.0%、「友人・知人、近所の人」が16.6%となっている。一方、「特に入手していない」は24.5%となっている。

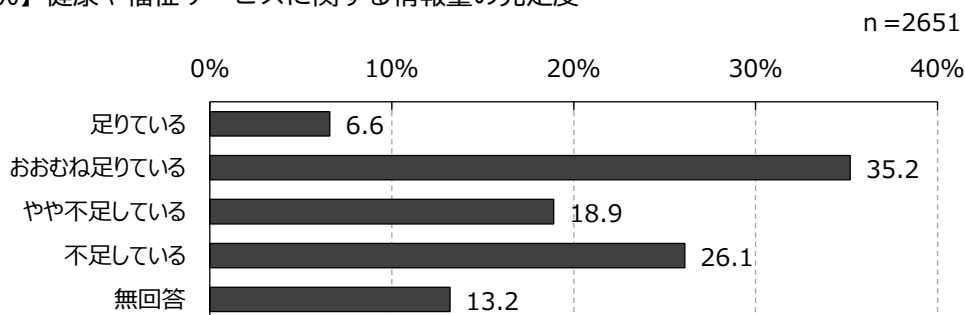
【図表 105】健康や福祉サービスに関する情報の入手手段



(2)あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思いますか。

健康や福祉サービスに関する情報量の充足度について、「おおむね足りている」が35.2%と最も多く、次いで「不足している」が26.1%、「やや不足している」が18.9%となっている。

【図表 106】健康や福祉サービスに関する情報量の充足度

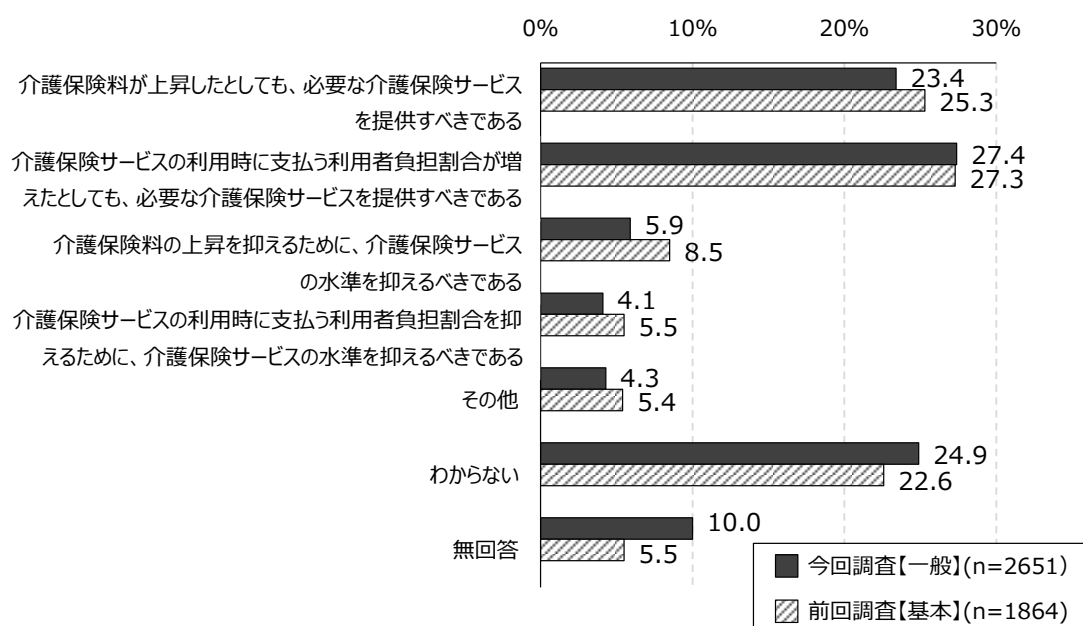


介護保険制度について

問74 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。

介護保険のサービスと費用負担については、「介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が27.4%と最も多く、次いで「わからない」が24.9%、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が23.4%となっている。

【図表 107】 介護保険のサービスと費用負担〈前回比較〉



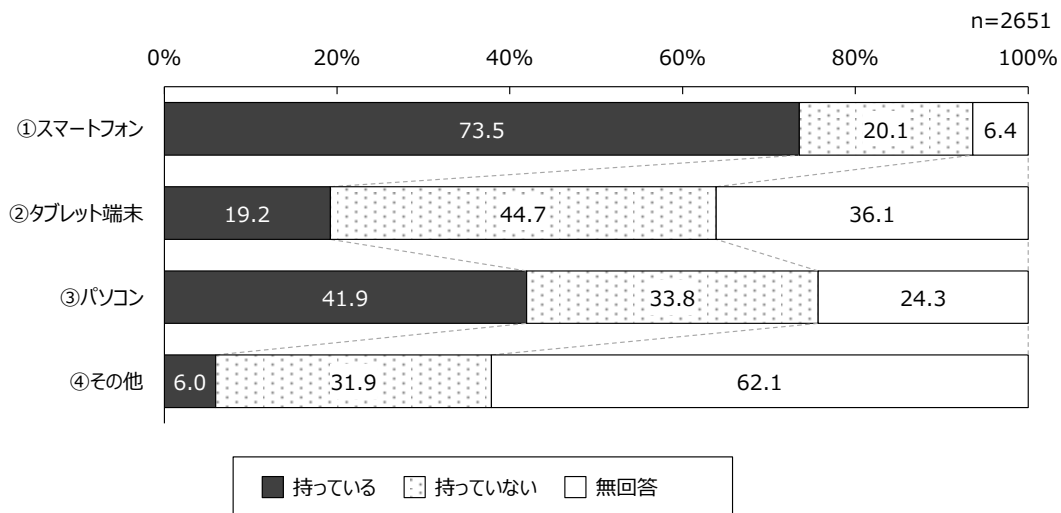
通信機器の利用状況等について

問75 通信機器の所有状況やインターネット等の利用状況についておたずねします。

(1)所有状況

通信機器の所有状況については、①スマートフォンを「持っている」が73.5%、②タブレット端末を「持っている」が19.2%、③パソコンを「持っている」が41.9%となっている。

【図表 108】通信機器の所有状況



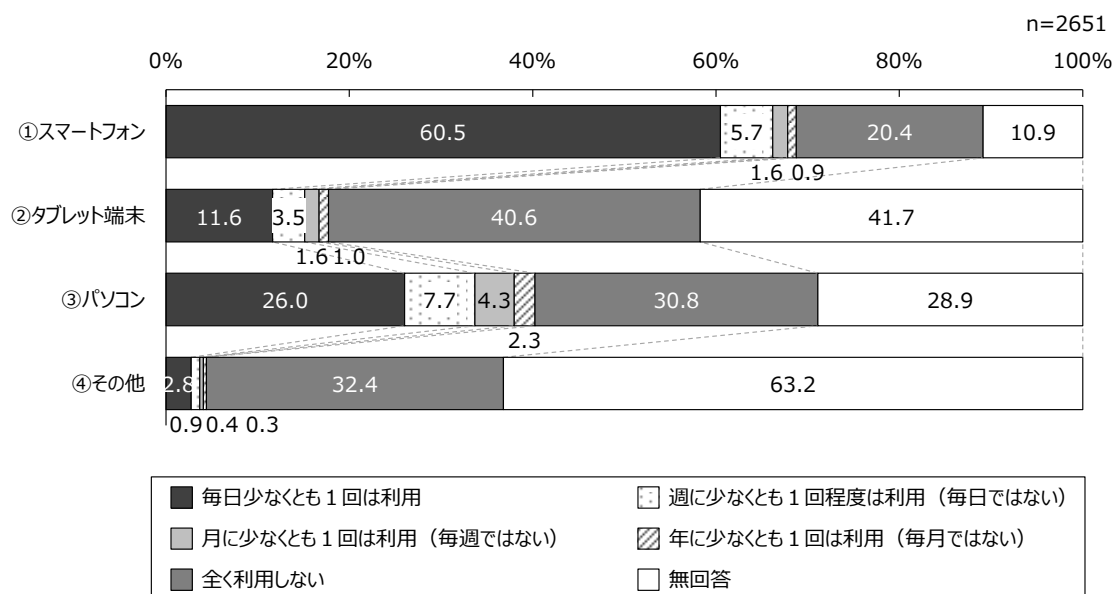
▼その他の主な内容

携帯電話（ガラケー）／固定電話 等

(2)過去1年のインターネットの利用状況

過去1年のインターネットの利用状況について、①スマートフォンでは、「毎日少なくとも1回は利用」が60.5%と最も多く、次いで「全く利用しない」が20.4%となっている。②タブレット端末では、「全く利用しない」が40.6%と最も多く、次いで「毎日少なくとも1回は利用」が11.6%となっている。③パソコンでは、「全く利用しない」が30.8%と最も多く、次いで「毎日少なくとも1回は利用」が26.0%となっている。

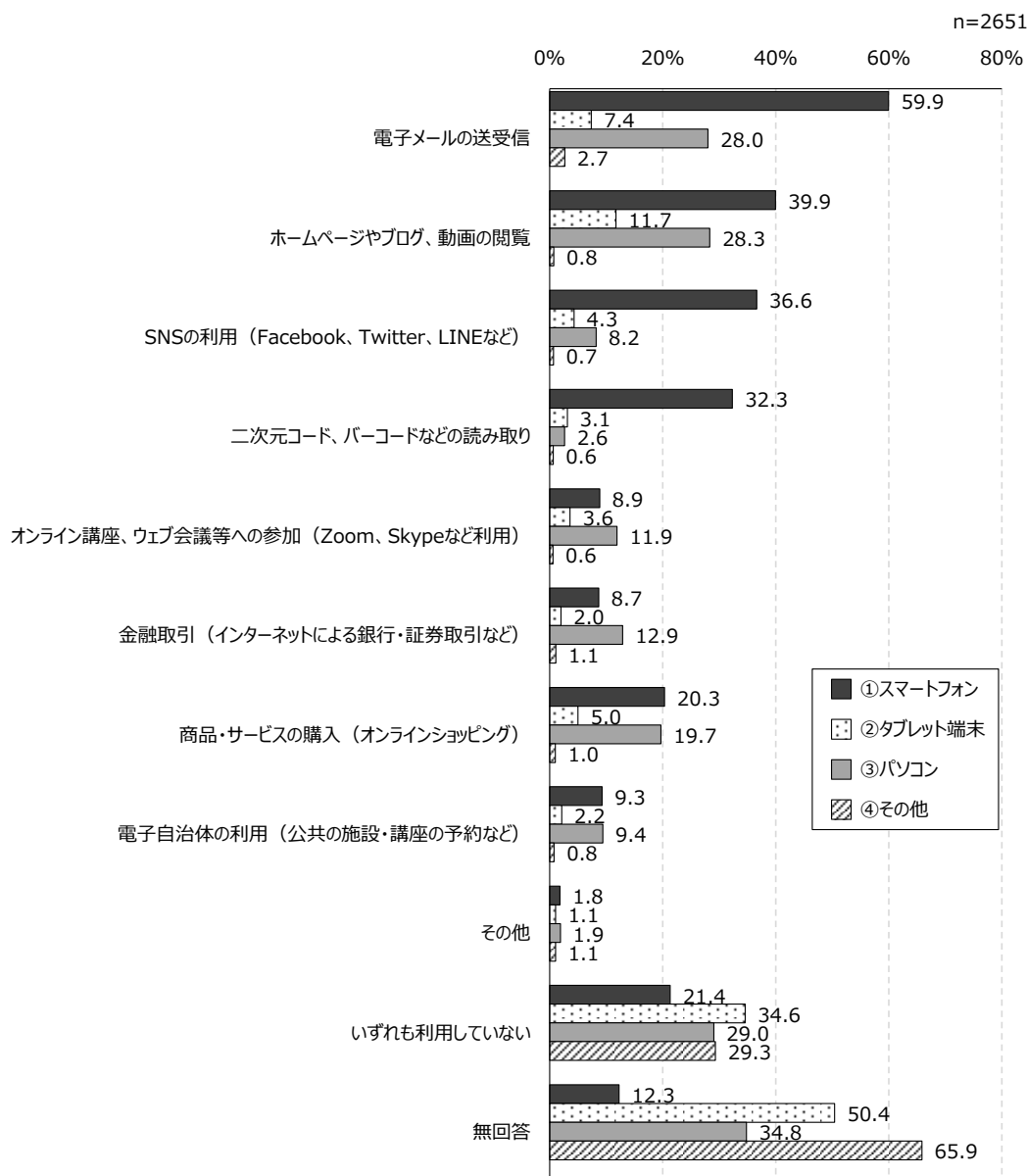
【図表 109】 過去1年のインターネットの利用状況



(3)過去1年間に利用した通信機器を使った機能・サービス(複数回答)

過去1年間に通信機器を使って利用した機能・サービスについて、①スマートフォンでは、「電子メールの送受信」が59.9%と最も多く、次いで「ホームページやブログ、動画の閲覧」が39.9%となっている。②タブレット端末では、「ホームページやブログ、動画の閲覧」が11.7%、次いで「電子メールの送受信」が7.4%となっている。③パソコンでは、「ホームページやブログ、動画の閲覧」が28.3%、次いで「電子メールの送受信」が28.0%となっている。

【図表 110】過去1年間に通信機器を使って利用した機能・サービス



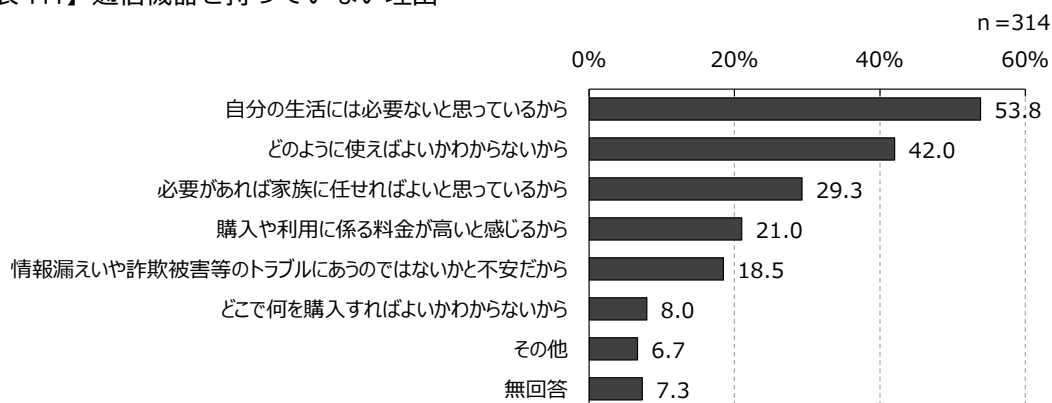
▼その他の主な内容

仕事／動画配信サービス／ゲームアプリ／表計算や文書作成 等

問75-1 スマートフォンなど通信機器を持っていない理由は何ですか。(複数回答)

すべての通信機器で「持っていない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「自分の生活には必要ないと思っているから」が53.8%と最も多く、次いで「どのように使えばよいかわからないから」が42.0%、「必要があれば家族に任せればよいと思っているから」が29.3%となっている。

【図表 111】通信機器を持っていない理由



▼その他の主な内容

携帯電話で十分／今後使いたい・検討中／視力低下のため／トラブル発生時に不安 等

自由記述

問76 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、682人から738件の回答があった。意見を18の項目にまとめた各項目の主な意見は以下のとおり。(その他を除く)

介護保険・保険料について	131件
<ul style="list-style-type: none"> ・年金から引かれる介護保険料が高い。 ・介護保険料が高い。介護保険を利用していない人、健康な人の保険料が高額すぎる。 ・介護の5段階がどのように決められているのかが良くわからない。 	
情報提供・相談について	100件
<ul style="list-style-type: none"> ・小冊子でQ&Aのようなものや、こうなったらどこに連絡するなどまとめたものを送ってほしい。 ・高齢者の保健・福祉や介護等について、窓口がどこにあり具体的にどのような基準で、どのような対応をしてもらえるのかわからない。具体的な手引書等があればいいと思う。 ・マンション住まいの為、情報がなかなか入って来ない。特に地域の活動などは、大切なケア情報など、メール配信を考えてみてはどうか。 	
高齢者施策について	57件
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りサポートの緊急通報システムの利用ができれば安心だ。 ・国や都に先がけて、福祉に重点を置いてすすめてほしい。最も困難をきわめている人に寄り添う新宿区であってほしい。 ・運転免許証の返納者にシルバーパスの先行発行及び個人負担分の(区としての)補助をしてほしい。 ・新宿区には全国的にも極めて「注目度」が高い地域があり、その意味でも高いレベルの保健と福祉が実施・提供されていることをアピールできるような施策を積極的に行うべきである。 ・高齢者が詐欺に遭わないように絶えず注意喚起をしてほしい。 ・元気に仕事がしたいのに年齢制限があり、思うように仕事が見つからない。高齢者でも働きたい人が就労できる仕組みをつくっていくべきだと思う。 	
行政への要望等について	51件
<ul style="list-style-type: none"> ・带状疱疹ワクチンの費用を助成してほしい。 ・エレベーター、スロープ、手すり等の設置を充実してほしい。 ・安全に歩ける道路や歩道となるように整備してほしい。 ・山手通りに区のミニバスが走っていたらいいと思う。 	
健康・介護予防について	40件
<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要としない為に高齢者に施策をするのではなく、中年層に運動・健康意識等の対応が必要だと思う。 ・介護予防講習会や健康相談等、出張所などで開催してくれたら参加したいと思う。 ・介護予防に関して基礎体力、運動能力の維持、向上をすすめるための活動・サービスの充実・制度の改正を望む。 	

アンケートについて	40件
<ul style="list-style-type: none"> ・このアンケートの質問数が多すぎて、後期高齢者では答えられない。もっと設問を簡単にしないと無駄になるのでは。 ・このような調査をすることで、より良い施策を期待している。 ・今回のアンケートは、介護保険等今後考える機会となった。このアンケートに保健福祉の案内チラシ等を同封しているとよかった。 ・このアンケートのおかげで、成年後見制度の事も勉強になった。 	
サービスについて	32件
<ul style="list-style-type: none"> ・出来れば質の良い介護を希望したいと思う。 ・家族にあまり負担をかけずに自宅で過ごせるような介護サービスを手厚くしてほしい。 ・一人暮らしと同居人がいる場合で受けられるサービスが違うというのが納得いかない。 	
国民健康保険・後期高齢者医療保険について	23件
<ul style="list-style-type: none"> ・後期高齢者医療保険料が高く年金の手取りが少なくなり、生活に影響し経済的にゆとりがなくなるように感じている。 ・後期高齢者健康保険料負担1割から2割はきつい。 ・後期高齢者の医療費負担割合の2割への切り替えについて、家族全員が対象となっている。保険料は配偶者とは別々に支払っているのに、収入の少ない配偶者も2割負担となることに疑問がある。 	
IT・通信機器について	22件
<ul style="list-style-type: none"> ・都内でもいくつかの区はスマートフォンの貸与等の取り組みをしていると新聞で見たが、新宿区はなぜしないのか。 ・スマホ、パソコン、タブレット等、自分で使えるように基本的な使い方を教えてくれる場所がほしい。 ・65才以上の高齢者には希望の有無を問わず、区の広報と直結するタブレットを配るべきだと思う。 ・電子処理が多くなり高齢者には、生きづらいと感じる。 	
高齢者向け施設について	21件
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が安心して入居できる施設をつくってほしい。 ・高齢者（低所得者）が利用できる介護施設を多く建設して、老後、心配のない福祉社会になってほしい。 ・高齢者が元気うちに、行政は地方に有料老人生活施設をつくり、自然の中で（但し、都市に出る交通機関があること）種々の職業の専門経験者は大歓迎で入居させる施設はどうか。 	
生活不安・将来不安について	19件
<ul style="list-style-type: none"> ・年金が減額されるというニュースを見るが、大変不安。 ・動けなくなり日常生活が困難になった時、一人で病院へも行けなくなった時どうしたらいいのか。 ・80才になった。これから先はたして元気で過ごせるのか、子どもに迷惑がかからないか、そういう事を考えると、とても不安になる。 	
独居高齢者について	19件
<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者が認知症になった場合の対応、包括をしっかりとしてほしい。 ・高齢者の一人暮らしで持家があり面倒を見る人がいないとき、事前に区に全財産を渡す契約を交わし、亡くなるまでの面倒を区が見るとするのはどうだろうか。 	

1 一般高齢者+介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

地域のコミュニケーションについて	10件
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちや全世代層と、日常的にふれ合う機会がある環境づくり。 ・地域ごとに、隣、近所の方々とふれあいの場所があれば嬉しい。 ・ワンルームマンションの建設が進みどのような人々が居住しているのかわからないなか、地域のつながりが少なく支えてくれる人々が減少している。 	
住まいについて	9件
<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者でも安心して入居できる住宅が増えるとよい。 ・高齢者のアパート賃貸契約の保証会社利用可能拡大策。 	
かかりつけ医・医療体制について	5件
<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医がどこまで対応してくれるか不安。緊急医療が心配。 ・長年通院していても夜間はほとんど受診できない。夜間の医療体制が安心できるものになってほしいと思う。 	
災害時・緊急時のことについて	2件
<ul style="list-style-type: none"> ・個別のレスキュー計画、薬、病院についてなど災害時の対応がどうなっているのか知りたい。 ・近所でも一人暮らしの高齢者が多い。緊急時の連絡や情報の提供をどの様にしたら良いのか考える。 	
認知症について	2件
<ul style="list-style-type: none"> ・認知症が心配なので、認知症の予防方法などを教えてほしい。 ・認知症であるために健康維持が難しい場面に多く遭遇した。治療の余地のある段階で検査や診察を受けやすくなる方策があればいいと思う。 	
その他	155件